

宗方小太郎日記，大正 9～10 年

大里 浩 秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に宗方小太郎の明治 21 年の日記（但し中国滞在時期のもののみ）を載せ、No. 40 に 22～25 年、No. 41 に 26～29 年（但し 27 年 6 月 27 日から 12 月末までと、28 年 3 月 23 日から 8 月末までを除く）、No. 44 に 30～31 年、No. 46 に 32～33 年、No. 47 に 34～35 年、No. 48 に 36～38 年、No. 49 に 39～40 年、No. 50 に 41～42 年、No. 52 に 43～44 年（但し 43 年の欧米旅行時期を除く）、No. 54 に 43～大正 2 年、No. 55 に 3～4 年、No. 56 に 5～6 年、No. 57 に 7～8 年の日記を載せた。今号ではその続きとして、大正 9～10 年の宗方の手書きの日記を活字に起こすとともに、解題を付すことにする。

前回までと同じであるが、お断りすべきことを記す。原文のカタカナは、西洋の固有名詞や外来語の表記を除いてひらがなに改め、漢字の旧字体は新字体に改め、適宜句読点を加えたが、日本人の名前の漢字は原文のままにした。私が付す解題中での原文の扱いも同様である。また、解読し難い文字は□で示した他、原文で間違いや不足があると判断したところには〔 〕で訂正や追加を試みた。日記の解読と入力作業は、本学中国言語文化修士修了、文学修士の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 大正 9 年 1 月から 12 月までの日記

大正 9（1920）年の日記は、宗方本人の綴じ方からは、大正 7 年 8 月 1 日から当年 8 月 31 日までの一綴じの一部と、当年 9 月 1 日から翌 10 年 8 月 18 日までの一綴じの一部からなっている。

前年 4 月中旬に日本から戻って以来上海に過ごして新年を迎え、さらに、3 月中旬には帰国し 6 月下旬に上海に戻ってこの年を終えている。元日に早くも 4 泊で浙江省に鳥撃に出かけ、2 月にも 3 泊で浙江省に出かけている。一緒に行くのはほぼ三井洋行の数人であり、彼らとは鳥撃を含む日頃の付き合いがあり、10 月以降にもその関係は続いている。それに比して、数年前には日をおかずに通った弓術の稽古には行かなくなった様子である。

日記には触れていないが、3 月までに海軍軍令部に報告した内容をここで見ておくと、二つのことに大別される。一つは中国内の政治情勢に関する紹介・分析であり、もう一つは、数年来高まっている排日運動への言及である。前者については、「久しく停顿せる南北議和問題も、即くが如く離るるが如くにして容易に接近する能はず。」（報告第 549 号，1 月 18 日）とし、北京政府と西南各派の対立などが解決し難い事情を取り上げている。後者については、「学生団の排日運動と官長〔？庁〕に対する反抗熱は日を逐ふて昂進を続け」（報告第 548 号，1 月 10 日）ているとして、日本政府が中国政府に対して青島還付の通牒を發したことに付いて、中国の排日団体はこぞって、山東問題は国際連盟會議に委ね、

日本との直接交渉は拒絶すべきだと主張している様子を何度か紹介している。そして、この二つを比べて、この時期の宗方の関心は、排日団体の動きにより向かっていと受け取れる。

他に上海に滞在した3月までのことで二つのことに触れると、長く交流があった姚文藻が2月1日「意識朦朧人事を省せず」の状態になり、急遽医者に診てもらったが、その後も「神経錯乱、……痲疾の状有り」(3月11日)だった。しかし、6月に上海に戻ってから姚に会っている状況では、病気は回復したように見える。もう1点、海軍からもらっている手当ての額であるが、3月4日に3か月分1040円をもらったとする。前年の日記では、それまでひと月300円だったのを70円増額して3か月で1110円受け取るようになったと書いている。さらに、翌10年4月の日記には1100円とある。小さい額の差とはいえ、このような違いがどうして生じるかは不明として残すしかない。

3月に帰国すると、以前同様海軍軍令部に足繁く通い、外務省に行き、同文会に顔を出しているが、これまでと違うのは、鼻の手術・治療にひと月専門医に通っただけでなく、それが一段落すると、上海に戻る直前までの20日近くを腎臓と高血圧の治療で別の医師のもとに通っている。1864年生まれで当年55歳になる宗方に健康上の問題があちこちに現れ出したということになる。

上海に戻ってからは、帰国前と同様中国内の政局について、安徽派と直隸派の対立・戦闘の様子に始まり、例えば「支那各派の連絡系統と現下の形勢」(報告第574号、10月27日)では各地の動きを詳細に報告している。そして、こうした報告を読むにつけ思うのは、すでに大正7年の解題で触れたことであるが、宗方1人の調査・分析によって報告が書かれているのではなく、宗方の周囲に調査し執筆する者が複数いて彼らが宗方の名前で報告を書いているのであろうということである。宗方の日記を見ると、以前からそうだが、「報告を作る」とし、その後に「海軍に報告を發す」と書く一方で、「報告を發す」とのみ書かれていることがある。これまで注目していなかったが、この書き方の区別によって、宗方が執筆に関わった報告と他の者に任せた報告の違いが示されている可能性があるのではないかと思えてきた。宗方以外の人が執筆したとする場合、日頃宗方から調査のイロハを学んできて今や東方通信社で働く若者が書き、それに宗方が目を通してから海軍に送ったと考えることができるのではないか。

東亜同文書院への関心、根津一との交流は続いており、10月24日に開かれた「同文書院創立二十年記念会」と根津院長還暦祝賀を兼ねた催しには「事故を以て」欠席したものの、9月3日の「日清貿易研究所創立三十年記念会」には参加している。健康については、12月18日に咳嗽から吐血に至り、20日にも吐血してしばらく止まらずに医者に診てもらったが、24日からは「病を勉て装を治」して3泊で鳥撃に出かけている。なお、詳細は不明ながら12月11日に山崎総領事ら上海総領事館館員と「東方通信社の事を商量す」とある。

ここで、この年に宗方が書いた海軍あての報告の号数・タイトルと日付を、『宗方小太郎文書』(以下『文書』と略称)のそれと対照しつづ日記中から拾い出す。

1月10日、第547号「南北議和問題」、第548号「学生団の風潮」。1月18日、第549号「南北融和の困難」、第550号「排日団体の日本通牒拒絶運動」。1月23日、第551号「西南旧国会の党派別並に各派の有力者」。1月30日、第552号「山東問題と国民大会」、第553号「制憲問題の紛糾」。2月10日、第554号「上海の国民大会」。2月17日、第555号「直接交渉反対運動」。2月25日、第556号「南北両面実力派の内訌」、第557号「南北和議の件」。3月4日、第558号「南北の内訌」。7月9日、第559号「皖直両派の決裂」。7月20日、第560号「皖直両軍の停戦と将来の政局」。7月24日、第561号「通電戦の開始」。7月27日、第562号「復辟予防の宣伝」。8月1日、第563号「政局善後策」、第564号「米国議員団歓迎準備」。8月9日、第565号「靳内閣の成立と政局の小結末」。8月12日、「報告を發す」とあるが、『文書』には該当する報告がなく、上海社会科学院歴史研究所にも所蔵がない。これが恐らく第566号報告にあたるのであろう。8月24日、第567号「時局雜俎」。9月5日、

第 568 号「時局統一難」。9 月 16 日, 第 569 号「南北統一と勢力の分配」。9 月 23 日, 号外「北支那飢饉の情況」。9 月 28 日, 第 570 号「北京政府对雲南系の交渉」。10 月 14 日, 第 571 号「各省自決の風潮」, 第 572 号「李純の変死と督軍問題」。10 月 19 日, 第 573 号「日支合弁小汽船会社」。10 月 27 日, 第 574 号「支那各派の連絡系統と現下の形勢」, 上海社会科学院歴史研究所所蔵, 以下「上海所蔵」と略称。11 月 12 日, 第 575 号「政況大観」, 第 576 号「時事雑俎」。11 月 24 日, 第 577 号「支那各省各派の連絡系統略註」。12 月 3 日, 第 578 号「支那政局の怪現象」。12 月 18 日, 第 579 号「政局大観」, 上海所蔵。

大正九年

正月元日 晴。前十時領事館に至り御聖影を拝し, 正午倶楽部の互礼会に出席し, 午後三時獵装を整へ税関碼頭に至りハウスボートに乗ず。野平, 守田, 石寄, 佐々布, 米田同行たり。四時開船。

正月二日 晴。未明平湖の白寺里に着す。前七時半上陸獵して, 海塩県北門外の慶豊橋に至り船に入て中食し, 午後県城と海塘の間を獵し, 四時半船に帰る。是日所獲山鴨一羽のみ。

正月三日 晴。前七時半上陸, 佐々布と相伴ひ城の西南門外に獵し, 正午茶館に投げ中食。四時半北門外の舟次に帰る。是日雉子三羽, 兎一頭を獲。晩食後船を黄橋に移す。

正月四日 晴。午前海塩の西門外に獵す。中食後船を北王橋に移し三時に上陸, 四時半舟に帰る。是日失中相尋で一も獲る所無し。六時開船。

正月五日 晴。前六時船上海に達す。七時寓に帰る。各地知人の年賀状二百余通に接す。内人の信至。山成, 余洵来訪。

正月六日 晴。大谷来訪。昨来新聞紙全部を閲了し, 年賀状に答ふ。亀雄に復書す。

正月七日 晴, 風大。二階堂大尉来訪。午後同文書院に根津, 大島, 眞島, 青木, 大脇, 宇治田を訪ひ年賀に答礼し, 帰途平岡, 井手を訪ふ。井手の処にて麵を吃し, 六時帰る。佐々布, 辻眞逸来訪。

正月八日 晴。各地知人の年賀状に答ふ。午後理髮, 西本の病を共立病院に問ふ。六時支那各新聞社の招宴に小有天に赴く。長崎より視察の為に来滬せし高寄行一市長以下八九を主賓とせる者也。支那側の主人は汪漢卿, 狄楚青, 余洵, 葉楚愴, 包天笑, 張季鸞等也。十時半散。佐々布と歩帰。寒月如水。

正月九日 晴。川島浪速に致書す。午後六時長崎視察団高寄市長以下の招宴に倶楽部に列し, 九時帰。

正月十日 半晴。内人, 清子の賀状至る。午前井手三郎来訪。海軍に報告を發す。午後迎英輔, 田上二雄, 辻眞逸来訪。名和大將に報告写を郵送す。丈夫賀状至る。旧友小濱為五郎客臘十八日死去の訃に接し, 弔詞並に香料を送る。細川侯大夫人の噩耗を得, 護立侯に弔詞を呈す。

正月十一日 晴。日曜日。午後北郊に獵す。無所獲, 四時帰。

正月十二日 晴。午前郵便局より三井に至り野平, 佐々布を訪ひ小談, 去て平岡を新利に訪ひ帰る。午後嵯峨艦長梅田三良来訪, 昨日福州より来滬せりと云ふ。漢口吉田少将, 東京有吉明に致書す。大谷是空の請帖に接す。佐藤少佐より茶羊羹二包を贈り来る。

正月十三日 晴。朝大谷是空を訪ひ小談。山田岳陽来訪。午後六時大谷と同車先施公司の東亜酒樓大谷の招宴に赴く。篠寄, 井手, 佐藤等同坐たり。九時散。

正月十四日 晴。午後篠寄を訪ひ, 軍艦嵯峨を訪はんとす。汽艇至らず帰る。塩島少佐美雄来訪, 宇治艦長として昨日来着せる者也。五時塩島, 白木を訪ひ, 六時佐原宅の晩喰に赴く。大谷, 井手, 篠寄, 島田, 並に佐原の弟六郎, 長男平太郎同坐たり。九時散。

正月十五日 晴。梅田嵯峨艦長に致書す。波多夫人来訪。午後根津同文書院長, 染谷保蔵, 遠藤保雄来訪。六時佐々布宅の晩喰に赴き, 十一時帰。井手, 島田, 平川同席たり。迎, 余来訪。

正月十六日 晴。山寄総領事の案内状至る。大島新, 神津助太郎に弔詞を發す。大島は其巖君, 神津は

其夫人の不幸有りしを以て也。眞島，林出に致書す。午後染谷保蔵を豊陽館に訪ひ，去て上海日報より領事館に至り山寄，塩寄を訪ひ，五時帰。上田吉郎来訪。海軍々令部より特別手当三百円を送り来る。山本副官に領収証を發す。夜菊池少佐，染谷保蔵来訪。

正月十七日 晴。午後山成，田上二郎，朱輔基来訪。

正月十八日 快晴。日曜日。午前理髮，正午山寄領事の招宴に其寓に赴く。支那料理の饗有り。根津，井手，福岡，青木，眞島同坐たり。三時半散。帰途篠寄を訪ふ，不在。夜佐々布来訪。広東八田厚志の信至。

正月十九日 晴。午後波多宅，西本，菊池を訪ふ。田中少将，並に内人の信至る。夜武田寛治郎来談。報告を作る。

正月廿日 快晴。大正日々新聞社營業局に株式二回分払込領収書二枚を郵送し，株券引換の手続を為す。郵船会社山口に托し鮭筋子，鵜粕漬を東京宅に送る。内人に致書す。海軍々令部に報告を發す。鳥居赫雄の信至る。広東八田厚志に復書す。上海日報より領事館に至り山寄領事を訪ひ，四時帰。岡吉次郎来訪。八時根津氏の帰国を近江丸に送る。

正月廿一日 快晴。午前同文書院に大島新を訪ひ其巖君を嗜し，山田岳陽と小談，正午帰。

正月廿二日 健晴。午前中西牛郎来訪。佐原，山寄に紹介す。午後五時姚文藻を訪ふ，不在。六時篠寄の招宴に赴く。大谷，井手，山田謙吉同坐たり。鶉鍋の饗有り。十時散。

正月廿三日 快晴。午前山寄領事，中西牛郎，上海日報館を訪ひ，正午帰る。海軍に報告を發す。辻眞逸の信至。夜佐々布来訪。

正月廿四日 快晴。今夕より三井野平，守田，佐々布等と浙江に出獵せんとす。午後獵装を治す。神寄正助に信片を發す。同行者に事故続出し今日の獵約を延期す。姚文藻来訪。晚佐々布来訪，留て同餐す。余洵来訪。

正月廿五日 晴。日曜日。午後白木を訪ふ。太田宇之助来訪。

正月廿六日 半晴。午前中西牛郎，津下精一來訪。午後五時深野志磨の追弔会に東本願寺に列席す。夜横山来談。

正月廿七日 雨。松倉，林出に信片を發す。七時倶楽部に至り欧洲より帰來せる前田正名翁の講演を聴く。翁本年七十五歳，老而益壯なるの概有り。十時帰る。

正月廿八日 積陰。午前井手来訪。午後理髮，上海日報社に井手を訪ふ。夜余洵来訪。

正月廿九日 陰。午前波多博来訪，今朝帰來せる者也。大谷是空来談。晚波多を訪ふ。

正月三十日 陰。午前波多来訪。内人の信，並に大正日々新聞社第三回払込の通告に接す。狩野直喜夫人松子の訃に接す。午後郵便局に至り海軍よりの特別費參百円を受取り，領事館より本月分二百円を領し，山寄領事と小談。大正日々新聞社第三回払込式百五十拾円を百三十銀佐野に滙送す。三島生に致書。石寄より獵時の写真二葉送來，之に復書す。東京宅に返書。狩野直喜に致書，其夫人を弔す。丈夫，清子に致書，獵装の写真を送る。夜報告を作る。大谷是空の詩韻に次す。

正月三十一日 微雨。報告を發す。午後西本省三，村上貞吉来訪。仏国上田仙太郎，岩寄栄蔵に致書す。夜佐々布を訪ふ。姚文藻の信至。

二月一日 積陰。田中少将に致書す。夜十時姚文藻急病の使に接し行て之を訪ふ。意識朦朧人事を省せず，人を派し医〔士〕を迎へ，午前一時半帰。雪。

二月二日 積雪皚々。午前井手を誘ひ姚の病を問ふ。昨夕に比すれば稍良好たり。正午帰る。王益三，波多，福士来訪。鈴木大佐乙免の信至。田中少将に致書す。夜余洵来訪。

二月三日 陰。不破孝太郎来訪，今晚上船一時帰国すと云ふ。十時不破を送る。

二月四日 雨。余洵来訪。

二月五日 雨。波多来訪。六時波多の招宴に小有天に赴く。篠寄，塩崎，平川，秋田，贅川，内山，上

- 田，島田等也。九時半青島石橋，岡田，寺田，石井合作の信片，福州西田耕一の信至。
- 二月六日 岡幸七郎に詩信を發す。宮川守善，河口愛子，小早川秀雄の信，並に松本菊熊の訃至る。平川清風，馬場義興，土井伊八來訪。六時井手の晩餐に俱樂部に列す。中西牛郎，島田，平川同坐たり。十時散ず。
- 二月七日 陰。松本菊熊弔詞を濱田信正に致す。午前理髮，井手を訪ふ。午後三時伊集院伊太利大使を静岡丸に迎へ，上海日報社に帰り小談。五時平川清風の帰国を税関碼頭に送る。海軍田中少將の信至る。
- 二月八日 半晴。日曜。午前中西牛郎，平川小太郎，石井則之來訪。中西南京行に付き多賀大佐に紹介す。午後島田來訪。二時静岡丸に伊集院氏の帰国を送り，上海日報社に井手と談じ帰る。古閑信夫，林出賢次郎の信至。夜波多來訪。
- 二月九日 半晴。久原洋行を訪ひ田上二雄入社のを依頼す。佐野直喜の信至る。之に復す。田上，古閑信夫，丈夫に致書す。坂井新三郎來訪。夜佐々布來訪，留て晩食す。余洵來訪。
- 二月十日 陰。海軍に報告を發す。松倉，不破孝太郎の信至る。
- 二月十一日 陰。紀元節。内人の信に接す。石井則之來訪。夜西本の病を問ひ，帰途佐々布に抵り，九時半帰。田中少將，狩野直喜の信に接す。
- 二月十二日 陰。朝春申社を訪ふ。一月十日海軍に發送の五百四十七八号報告不着の報に接し再び之を郵送す。名和海軍大將，井出中佐に致書す。夜余洵來訪。
- 二月十三日 雨。午後賀來敏夫來訪，昨〔日〕到着せりと云ふ。
- 二月十四日 雨。午前中西牛郎來訪。
- 二月十五日 積陰。午前佐々布，平岡，守田を訪ふ。佐々布の処にて汁子を用ひ，二時帰る。寺中哲男來訪。東京内人に發信す。六時佐原の招宴に其寓に赴く。大谷，島田，波多，山口，上田，賀來等同坐たり。十時帰。余毅民來訪。
- 二月十六日 陰。午前山崎領事，塩寄，井手を訪ふ。午後山田岳陽，寺中哲男，余洵來訪。篠寄來談。
- 二月十七日 雨。宮川守善來訪，昨日着せりと云ふ。海軍に報告を發す。參謀本部大竹，日下兩大佐，並に佐藤少佐來訪。理髮，万歳館に大竹，日下を訪ふ。西田耕一來訪せりと云ふ。林市蔵の信至る。
- 二月十八日 陰。朝西田耕一の北京に帰るを車站に送る。中西牛郎來訪。津下精一より雪茄煙二箱を贈り来る。十時中西，津下の帰国を送る。午後井手來訪，武昌名産の芸菜帶を贈る。波多，宮川守善來訪。岡西門の詩信に接す。夜佐々布來訪。三島生の信至る。
- 二月十九日 陰。三島に復書す。午前郵便に至る。波多を訪ふ。是夕より三井野平，守田，佐々布，米田，石寄等と浙江に獵せんとす。午後行装を治す。六時税関埠頭に到り上船。
- 二月廿日 陰。晌午海塩西門外の嘉興運河に達す。食後上陸打獵，道路滓泥獲る所無し。晩船を黃鶴橋に移す。
- 二月廿一日 雨。朝食後上陸，鴨一羽，兎一頭を獲たるのみ。午後船を高橋に移し雨を冒して上陸。道路泥滑全身皆沾ふ。四時半帰船。晩船を北王橋に移す。
- 二月廿二日 積陰。八時上陸打獵，鴨一羽を獲。中食後船を平湖県城外に移す。二時上陸城外に獵す。獲る所無し。微雨。五時船次に帰る。六時帰途に就く。夜半風浪船を蓋して眠る能はず。
- 二月廿三日 陰。未明上海着，七時上陸一行と分れ寓に帰る。丈夫，稻生，迎英輔，牧田武の信，並に細川侯の信片に接す。山成來訪。夜余洵來訪，粽子を贈る。
- 二月廿四日 晴。波多來訪。
- 二月廿五日 陰。画家宅野田夫來訪。郵船会社新支店長松平市三郎より案内状至る。海軍に報告を發し，別に三月帰京の事を通知す。午後櫻木俊一，篠寄，渡辺天洋來訪，井出光輝の信至。晩波多宅に至り井手，島田等と獵獲物を会食，九時帰。

二月廿六日 雨。山成，宮川来訪。実業協会安原を訪ひ宮川身上の事を托し，帰途宮川を訪ひ立談帰。
六時平岡宅の晩餐に赴く。大谷来会。

二月廿七日 雨。帝国議會普通選挙案にて解散の電報有り。宮川守善来訪。丈夫並に迎に信片を發す。

二月廿八日 晴。理髮，井手を訪ひ小談。

二月廿九日 晴。日曜日。前九時佐々布，平岡を誘ひ吳淞に獵す。無所獲，二時の汽車にて帰る。佐々布の処に小休汁子を吃し，四時帰寓。大島新来訪せりと云ふ。七時郵船新支店長松平市三郎の披露宴に俱樂部に列し，九時帰。

三月一日 半晴。山成，大谷来訪。大谷は今夕の便船にて帰国すと云ふ。夜余洵来訪。

三月二日 大雪紛飛。漢口橘三郎より紅茶一箱を送り来る。橘，宝妻に致書す。東京有吉領事に発信す。午後永瀧久吉来訪。伊集院俊の信至る。之に復す。夜永瀧を訪ふ，不在，白木と小談。

三月三日 陰。午前山寄領事，井手を訪ふ。朝鮮井戸川辰三に致書す。木下より鮮魴十数尾を贈り来る。夜余洵来訪。

三月四日 半晴。報告を作る。六時春申社西本の岩田衛招待宴に先施公司の東亜酒樓に列す。岩田は昨日来着せる者也。井手，島田，佐原，塩寄，篠寄，波多，太田，大島，村上同座たり。九時散す。海軍々令部副官より金千〇四拾円電報為替にて送り来る。

三月五日 陰。漢口吉田少将に致書，帰国を報ず。郵船会社山口啓三に致書。東京宅に帰期を通報す。軍令部に報告を發し，別に山本副官に金子領取証を發送す。午前台湾銀行に至り海軍よりの送金千〇四拾円を銀にて受取四百三十九弗二三と為る。上海日報社に至り去年末借る所の銀百五十元を返済して帰る。岩田衛，坂田長平，波多博来訪。午後嵯峨艦長梅田中佐来訪。大島新来訪。

三月六日 快晴。朝梅田中佐を豊陽館に訪ひ，上海日報に井手を訪ひ，共に滙山碼頭に至り西省三の帰国を送り，帰途山口啓三を訪ふ，不在。午後松村松二郎，五十嵐富三郎来訪。夜十一時岩田衛，荒木潮の南京行を車站に送る。

三月七日 半晴。日曜。風大。午後友野盛，木下温知，山口啓三，佐々布を訪ふ。内人の信至る。清子懐妊の吉報有り。白木少佐より海軍よりの電報を転送し来る。四日電報為替中三百円は往復旅費なりと云ふ。

三月八日 陰。午前山寄領事，塩崎，井手，白木，安原，内山，波多を訪ふ。佐々布来訪。大島新に致書す。午後塩島少佐，鄭垂来訪。鄭氏の為に小幡北京公使，奉天赤塚領事，菊池大佐，町野中佐に紹介状を作る。波多来訪。

三月九日 雨。中川外雄，佐々布，佐原前後来訪。大島新の信至る。長崎土佐屋，門司香月梅外に帰国を通知す。田川来訪。

三月十日 雨。中食後島田を訪ふ。午後七時日本人倶楽部の義勇隊賞品授与式に列し，十時半帰。

三月十一日 雨。陸軍大佐菊池武夫，並に井手三郎来訪。午後宮川守善来訪。松寄雀雄，飯塚卯三郎の信至る。晩姚文藻を訪ふ。神經錯乱言語序次無く瘋疾の状有り。田上二郎，余洵来訪。

三月十二日 陰。午前理髮，篠寄，白木，佐原，山寄，塩寄，内山，贄川を訪ひ別を叙す。午後余洵来訪，其の求により北京小幡公使，西田，船津への紹介状を与ふ。佐々布，竹内来訪。七時波多宅の晩餐に赴く。塩寄，太田，外二三人同坐たり。十時半散。

三月十三日 陰。吉田少将漢口よりの信至。波多夫婦，鄭垂，余洵来訪。明日の天洋丸にて帰国せんとす。朝来行李を收拾す。上田吉郎来訪。小西伊十の信至る。晩篠寄，余洵，今井，宮川来訪。余より羊羹，餅干，菓子を贈る。夜井手の招宴に赴く。井手敏夫，篠寄，佐原，秋田，島田，波多同座たり。八時帰る。

三月十四日 快晴。日曜。是日東洋汽船会社の天洋丸にて帰国せんとす。午前大島新，宅野田夫，島田数雄来訪。宅野自筆の画を贈る。十一時税関埠頭に至りテングーに乗ず。井手，島田，波多夫婦，上

田吉郎, 佐々布, 塩島少佐, 木下温知, 山成, 友野, 賀来, 甲斐, 宮川, 谷口, 渡辺来送。正午開船二時呉淞に至り東洋汽船会社の天洋丸に乗ず。三時半開船。安楽勇十郎, 佐藤順, 鶴谷忠五郎等と同船たり。十二号室を占む。

三月十五日 穏晴。

三月十六日 晴。長崎港外着。天洋丸の錨地に春洋椀〔碇〕泊中にて入港する能はず。

三月十七日 晴。長崎上陸。十一時の急行に乗ずる能はず, 土佐屋滞在。

三月十八日 快晴。午前十一時急行車に乗ず。憲兵伍長豊福初次来送。午後六時門司着, 香月梅外来迎共に聯絡船を同ふし馬関に至り相別る。夜七時十分の特急にて発す。

三月十九日 快晴。午前琵琶湖畔を過ぐ。比良の残雪晴空に懸り湖光雪色相映帯し, 風光画くが如し。午後四時静岡を通過す。富嶽の半峯積雪皚々神秀掬すべし。八時二十五分東京到着。丈夫, 友義両員来迎。自働〔動〕車を賃して麻布北新門前の寓に帰る。家族と暢談, 深更就寝。

三月廿日 晴。土曜日。終日在家。

三月廿一日 晴。日曜。中食後内人と喜多舞台に至り道成寺, 咸陽宮, 安宅等の演能を觀。八時半散, 帰途神保町に小食, 九時半帰。

三月廿二日 陰。前十時海軍々令部に出頭し, 田中少将, 山本副官, 井出, 福吉, 北岡等の中少佐, 島村軍令部長に面会し, 去て有吉明を外務省に, 西田敬止を女学館に訪て帰る。夜雨。

三月廿三日 午前雨, 午後放晴。上海山壽領事, 波多博に致書。波多の上京を促す。明治商業銀行に至り預金す。大谷藤治郎, 二階堂泰治郎の信至。

三月廿四日 雨。二階堂に復書す。辻源助, 古賀末蔵に致書す。森恪に致書, 宮川守善の事を依頼す。

三月廿五日 雨。五時八角三郎を訪ふ, 不在。大島新の信至。

三月廿六日 微雨, 春寒料峭。海軍々令部次長より案内状至る。宮川守善に信片を發す。午前大島新来訪, 廿四日上海より帰来せりと云ふ。午後軍令部に至り竹下中将, 田中, 伊集院兩少将に会談, 副官より四, 五, 六月分手当を受取り, 外務省に松岡洋右, 有吉明, 高尾亨を訪ひ, 去て同文会に根津氏を敲き, 五時帰る。渋谷作助, 佐々布に致書す。広東八田に復書す。

三月廿七日 晴。渋谷作助, 脇坂岳虎来訪。夜八角三郎, 内田友義来訪。

三月廿八日 陰。日曜日。本山義人来訪。大島新の信至る。六時築地精養軒に竹下軍令部次長の招宴に赴く。田中, 伊集院兩少将, 八角, 山本, 井出, 藤吉, 洪, 北岡, 白木, 園田, 外一, 二人同席たり。九時散ず。

三月廿九日 微雨。川口市之助に致書す。白岩, 荒賀, 田鍋, 宮島に信片を發す。七時八角中佐の北京行を東京駅に送る。

三月三十日 雨。井手, 島田, 河口, 田中, 菅村に致書す。田鍋, 白岩の信至る。大島新に復書す。川口の信至。

三月三十一日 雨。

四月一日 晴。午後三井物産会社の藤瀬, 小田柿, 神寄, 林, 山本等を訪ひ, 去て小石川に古城貞吉を訪ひ小談, 細川侯邸に伺候して帰る。夜雨。林市蔵に致書, 高木敏夫身上の事を依頼す。

四月二日 雨。塩島少佐に致書す。

四月三日 雨。午後五時細川侯爵の熊本に赴かるゝを東京駅に送り, 尾越辰雄と車站の食堂にて晩餐し, 七時半帰る。道路泥濘, 電車の雑踏言語に絶せり。波多の電報至。

四月四日 雨。日曜日。午後本山義人来訪。河口介男の信至る。

四月五日 雨。响午村山正隆来訪。

四月六日

四月七日 晴。午後海軍々令部に竹下中将, 田中, 伊集院兩少将と談じ, 三時去て小橋一太を訪ひ夫人

と小談，歩して同文会に至り根津氏を訪ふ，不在。女学館に西田敬止，晚翠軒に井上を訪ひ小談。日比谷公園を徜徉し，五時半華族会〔館〕の一水会に列席す。松平恒雄，奈良中将の西伯利里談有り。出席者三十名。十時散ず。

四月八日 晴。竹下中将皇太子殿下への進講の材料として支那政況を起稿す。五時内人と芝公園を散歩す。桜花三分蕾を破り春色人に可なり。大島新の信至る。波多博に信片を發す。

四月九日 晴。午前支那政況を脱稿し海軍に郵送す。

四月十日 晴。中食後内人と飯田町喜多舞台に到り觀能，八時帰る。喜多六平太の弱法師技神に入るの感有り。

四月十一日 快晴。正午高野弦雄，久保田豊來訪。午後丈夫，清子と芝公園に散歩す。桜花満開遊人如織。三縁亭茶点を用ひ，四時帰る。波多の信，並に三月分金子を送り来る。

四月十二日 晴。午前白岩龍平來訪。波多に信片を發す。内人と出て麻布の高台に桜を觀，谷町に内田友義を訪ふて帰る。

四月十三日 快晴。午前軍令部に田中，伊集院を訪ひ，外務省に松岡，高尾と談じ，正午帰る。霞ヶ関の桜花最も美觀たり。午後内人と出て花を看る。夜高木敏夫來訪。平岡，林出に信片を發す。

四月十四日 陰。朝荒賀直順來訪，田鍋安之助の信至る。田鍋，大島に復書す。午後大雨。

四月十五日 晴。狩野，土屋，鳥居に帰京の報知を發す。上海白木少佐の信片至る。之に復す。午後大島新を牛込薬王寺町に訪ひ暢談，去て喜久井町に田鍋安之助の病を問ふ。根津一在焉，酒饌の饗を受け，六時帰る。

四月十六日 晴。午前小林捷太，波多博の紹介状を携へ來訪ふ〔す〕。之を外務省有吉，高尾に紹介す。山本増雄に病氣見舞を發す。

四月十七日 晴。内人と花を芝公園に觀る。小林捷太來訪，山葵漬を贈る。京都狩野直喜の信至る。河口虎夫，田中悌二郎に復書す。

四月十八日 快晴。日曜日。本山義人，安河内弘前後來訪。鳥居赫雄の信至る。午後丈夫，清子と桜を芝公園に賞す。小早川秀雄逝去の報に接し遺族に弔詞を發す。

四月十九日 晴。早朝桜を公園に觀る。午前田鍋安之助，午後古城貞吉來訪。

四月廿日 晴。藤吉中佐の信至る。之に復す。大阪鳥居赫雄に致書す。午後理髮。

四月廿一日 晴。午前高妻医士の処に至り鼻の治療を受く。

四月廿二日 晴。午前高妻医士に抵る。是夜清子着帯祝を為す。午後雷雨。

四月廿三日 快晴。藤村義朗より大正日々新聞社辞任の通知状至。午後高木敏夫來訪，高妻医士に抛る。

四月廿四日 晴。午前海軍々令部に田中少将，井出大佐を訪ひ，去て外務省に伊集院大使に晤し，正午帰。高妻医士に至り受診。

四月廿五日 日曜日。終日在家。夜に入て雨。

四月廿六日 雨。菅村三之，龜雄に致書す。高妻に抵る。

四月廿七日 晴。上海波多之電報，並に山本増雄，鳥居の信至。

四月廿八日 晴。午後内人と鳥居坂一帯に散歩す。

四月廿九日 晴。午前高妻医院に到り受診。有吉明，小池張造に致書す。

四月三十日 陰。午後内人と芝公園に散歩す。満園の躑躅渥丹の如く新緑の間に粧点し，極て美觀たり。

五月一日 雨。午前鳥居の信片至る。午後三時高妻医院に至り右方鼻茸の切解を為す。大小四個を切除す。五時帰宅，床に就て静養す。上海井手三郎の信至。

五月二日 半晴。日曜日。午後高妻に抵り受診。土屋員安，林出賢次郎，井出光輝の信に接す。

五月三日 雨。

五月四日 雨。午前波多博來訪，昨夜上海より來着せる者也，留て中食す。午後鼻中のガーゼ全部を取

り去る。多少出血有り。

五月五日 雨。根津一氏の信至る。高妻医院に至り受診。松倉に致書。

五月六日 雨。高妻医院に抵る。夜波多来談。

五月七日 雨。午前理髮。帰途高妻医院に至り受診。夜林出賢次郎に復書を認む。九時半突然右鼻より出血滾々不止、氷を用て之を冷すも効無く、天明に至りて纔に止む。

五月八日 午後高妻に至り受診。雨。

五月九日 雨。日曜日。上海小林捷太の信至る。波多に致書す。

五月十日 雨。午後高妻に至り受診。大阪辻源助の信至る。

五月十一日 晴。午後高妻に至り受診。午後河野久太郎来訪。

五月十二日 晴。午後高妻医院に至り受診。夜雨。

五月十三日 晴。朝地震。午後高妻に至り受診。波多来訪。菅村の信至る。

五月十四日 晴。菅村に復書す。午前軍令部に田中、伊集院を訪ひ、外務に有吉、高尾を敲き、帰途西田家に波多を訪ひ帰る。午後四時より内人と靖国神社能楽堂に至り美音会の演能を観る。観世元滋の熊野、喜多六平太の石橋有。九時散ず。古城貞吉に邂逅す。電車虎の門に至り歩いて帰る。上妻博路英国よりの信至る。平岡の信片に接す。

五月十五日 晴。午前脇坂岳虎、波多博来訪。午後波多来る。共に出て安河内弘を三光町に訪ふ、不在、加藤要三郎に面す。去て河野久太郎を白金今里町に訪ひ暢談、六時帰る。波多を留て晩食す。夜雨。

五月十六日 晴。松倉の信片至る。之に復す。午後一時飯田町喜多能楽堂に至り竹生島、鉢ノ木、小袖曾我の能を観、六時終。帰途飯莊にて晩食、八時帰宅。夜微雨。

五月十七日 晴。朝波多来訪。晌午亀雄来訪。午後外務省に有吉、速水、鈴木、岩寄栄蔵を訪ひ、帰途西田敬止、波多博を訪ひ小談、四時帰宅。加藤壮太郎来訪せりと云ふ。

五月十八日 晴。鳥居の信片至る。高妻医院に至る。

五月十九日 晴。朝波多来訪、食事を共にす。午後内人と青松寺、愛宕山に遊ぶ。海軍より海軍記念日祝賀会の案内状至。

五月廿日 晴。前八時半波多の上海行を東京駅に至〔送〕り、去て日本銃砲店に至り猟足袋、犬頸環を購て帰る。宮川守善の信至。

五月廿一日 半晴。水交社に海軍記念日祝賀会出席を辞す。午前理髮。午後高妻医院に至る。

五月廿二日 晴。高妻医院に至る。午後伊集院俊、安達謙蔵を訪ふ、不在。

五月廿三日 晴。日曜日。本山義人来訪。十時芝青松寺の故山座円次郎、水野幸吉の七週年追悼会に出席す。土屋員安、増田高頼、其他多数の旧知に会す。正午式終はる。土屋来訪、中食を共にす。夜内人と内田友義を谷町に訪ふ。

五月廿四日 陰。

五月廿五日 晴。午後内人と三河台、六本木地方に散策す。

五月廿六日 晴。午前内人と清子を伴ひ駿河台濱田病院に至り受診、小幡惟清と小談。帰途信盛堂にて化粧道具、襪等を購ひ、午後一時帰宅。

五月廿七日 晴。大坂鳥居の信至る。之に復す。内田友義、土屋員安、小畑に信片を發す。夜雷雨。

五月廿八日 陰。上海井手、島田に致書す。午後白岩龍平来訪。雨。

五月廿九日 陰。日支経済通信社坪井北鳴来訪、白岩、川口に紹介名刺を与ふ。晩小畑惟清を招き会食す。内田友義、丈夫同坐たり。

五月三十日 陰。日曜日。午前本山義人来訪。午後二時内人と不忍池畔の弁天祠の観音会に出席す。梶川乾堂の法話有り。宮島、荒賀、速水等に晤す。四時半帰る。津田静枝中佐来訪せりと云ふ。

五月三十一日 陰、微雨。午前今井町二二額田医院に至り腎臓の診察を受く。鳥居の信至。

六月一日 晴。

六月二日 晴。午前額田医院に至り受診の結果、血圧二百二十（普通百二十三十）にて過高の為め左腕より血液三十瓦を採る。午後六時華族会館の一水会に出席、十時半帰。

六月三日 晴。午前明治商業銀行に至り預金を受取る。午後海軍々令部に田中少将、井出、山本兩大佐、津田、塩島、藤吉等を訪ひ、四時華族会館の同文会春季大会に出席。会者野田、床次、牧野、伊集院以下八十余人。川島、佃、増田、亀井以下旧知多数に会するを得たり。支那公使館員数人亦臨席。六時半開宴、九時散ず。

六月四日 雨。午前額田医院に至り受診。是日朝来牙痛。高木敏夫来訪。

六月五日 陰、雨。上海波多、東和洋行、古賀に帰期を報ず。午後理髮、高妻に至り受診。井手三郎の信至。

六月六日 晴。日曜日。午前竹下勇中将を高輪車町に訪ひ暢談、晌午帰る。午後河口由次来訪。松倉の信片至。

六月七日 半晴。新橋栄次郎来訪。午前額田医院に至り受診。午後波多の送金を郵便局より受取る。波多、松倉に復書す。高妻医院に至り治療料十八円を納付す。五時半白岩の招宴に麻布桜田町興都庵に赴く。宮島、田鍋同座たり。茶料理の饗有り。十時半帰。

六月八日 晴。

六月九日 晴。午前額田病院に至り受診、血圧百八十に低下す。七時内人、丈夫と葵館に至り影戯を觀、八時半帰。伊集院少将より案内状至る。之に復す。

六月十日 半晴。午後荒賀直順、大島夫人、加藤壯太郎前後来訪。土屋員安の信至。

六月十一日 陰。朝伊集院俊来訪。午前額田病院に至り受診。

六月十二日 陰。鳥居、土屋、古城に致書。午後白岩、尾越を訪ふ。

六月十三日 陰。日曜。本山義人来訪、留て中食す。午後三時内人と喜多舞台に赴き能を觀る。古城貞吉の信至。岡本理治の信片至。

六月十四日 陰。午前額田病院に至る。六時伊集院俊の晩餐に麻布筈町の宅に赴く。島津家々令岩崎宰翁同座たり。寛話九時半に至り辞帰。長崎郵船会社川村景敏に致書す。

六月十五日 陰。午後海軍々令部に竹下中将、田中、伊集院兩少将、井出、塩島、津田諸知人に告別し、外務省に有吉、高尾、松岡に告別、去て西田家より同文会に至り田鍋、宮島と暢談、五時帰。小雨。丈夫と飯倉四丁目に至り鰻飯を吃し、八時帰る。大正日々社鳥居より総会の結果自身退社の事を報じ来る。

六月十六日 陰、雨。上海波多の信至。井手、波多に復書す。高尾亨に致書。午後岡本理治来訪。五時津田中佐、神尾茂来訪。夜脇坂来談。大雨。

六月十七日 半晴。午後小石川丸山町に亀雄、並に加藤壯太郎を訪ひ、五時帰る。海軍より七、八、九、三ヶ月分手当を送り来る。山本副官に領収証を送る。土屋員安の信至る。晚丈夫と銀座資生堂に至りアイスクリームを吃す。

六月十八日 陰。東洋大学生某古城の添書を携へ来訪、余の講演を乞ふ。事を以て辞す。西田夫人来訪、食品三点を餞せらる。午前三菱銀行に至り海軍の手当金を受取り、白岩を東亜興業に訪ふ、不在。帰途高妻医士に至り告別す。午後額田医院に至り受診。鳥居素川来訪。六時半三河屋の会に赴く。同人余の行を餞する也。同坐は木村丑徳、宮島大八、田鍋安之助、加藤壯太郎、佃信夫、川島浪速、荒賀直順、速水一孔、鈴木恭堅等也。九時半散ず。

六月十九日 雨。安河内弘来訪。午前銀行に赴き、理髮して帰る。午後行装を治す。渋谷作助に信片を發す。亀井陸良の信至る。之に復す。増田高頼来訪。

- 六月廿日 雨。前七時半家族と別れ上車、家門を出て支那行の程に上る。東京駅に至り八時半の特急車に乗ず。荒賀、宮島、渋谷、本山、河口由次、内田、亀雄、丈夫来送。夜八時大坂着。朝日新聞社員中山優、智識兼夫来迎。自東京陸軍技師後藤尚と同室たり。満洲に赴く者也。神戸を過て寝台に入る。
- 六月廿一日 雨。前九時三三分下関着、後藤と分袂す。十時二十分門司に渡る。三島生と邂逅す。立談して別る。塚原嘉一郎と三の宮より車を同くし、共に長崎行列車に乗ず。車中にて午喰を与にす。午後五時一三分長崎着、塚原に別れ上車土佐屋に入る。途中八田厚志に邂逅す。広東新聞記者団二十一名を引率し昨夜来着せりと云ふ。七時八田来訪、九時半八田を坂本屋に訪ふ、不在、東京有吉明への添書を留めて帰る。十時八田再来訪、十一時の汽車にて出発すと云ふ。
- 六月廿二日 陰。東京宅、宮島、荒賀、渋谷、山本大佐、田中少将、伊集院少将、井出大佐に致書。別に熊本田辺、河口、菅村、田中、古閑、善通寺田辺、並に鳥居、土屋、狩野、辻に信片を發す。増田少将、津田中佐、田鍋、三島に一札を致す。大村聯隊の熊本出身武官より電話にて明日大村に招待の事を通じ来りしも之を辞す。午後雨。夜高来沅江来訪。
- 六月廿三日 雨。五時起床、北京八角中佐に信片を發す。六時大村聯隊の中佐西次雄、中島知能、小西伊十来訪、夜に入て去る。小西自作の夏蜜柑頭大のもの数個を贈る。東京宅に致書す。
- 六月廿四日 半晴。是日春日丸にて長崎を辞せんとす。午前行李を收拾し、午後三時の汽艇にて春日丸に上る。川村支店長来送、安原美佐雄、小山清次等と同船たり。四時開船、雨至傾刻即晴、海上静穏無風無浪平地を行くが如し。黄昏五島を過ぐ。七時三十二分にして太陽始て崦嵫に没する。
- 六月廿五日 微陰。海上穏静昨〔日〕と殊ならず。浴後船客と暢談。
- 六月廿六日 陰。朝六時半上海滙山埠頭着、井手三郎、島田数雄、不破来迎、上陸東和に投ず。井手、島田、大谷、波多、二階堂来訪。波多と朝食す。出て領事館に本多公使、山崎領事、林出、内山、贊原等を訪ひ小談、去て井手、島田、北岡、佐々布、宮川来訪。夜波多、余洵、平岡、友野等来訪。田中少将、山内崑、神尾、小西伊十、中西牛郎、岩田衛、有蘭善行、小泉土之丞、布施知足、山岡少将、本庄大佐、和田連次郎、隈元喜助、甲斐、三島、神崎、狩野、田島勝太郎等の信に接す。
- 六月廿七日 半晴。午前九時半より北岡、二階堂、海陸軍部官と自働車にて同文書院の開院式に列し、式終り会食後大島と暢談、二時帰る。狩野直喜、安河内弘、田鍋安之助の信至る。田鍋、山内崑に復書す。東京留守宅に致書。山成来訪。七時倶楽部の熊本人会に出席、十時半散。会者四十人。
- 六月廿八日 晴。西本、赤平来訪。軍令部田中少将に致書、履歷書を封送す。午後領事館に至り山崎に面し本月分経費を受取、帰途井手、篠田を訪ふ。小山清次、谷口源吾、副島綱雄、薛徳樹前後来訪。晩篠崑来訪。八時井手、島田を誘ひ大島新の帰国を春日丸に送り、十一時帰。
- 六月廿九日 陰。午前波多、高橋大佐節雄、園田、北岡両少佐来訪、吉田司令官に致書す。午後友野、上田、小山清次、北岡、佐原を訪ふ。夜高橋大佐を福岡禄太郎宅に訪ひ小談、去て佐藤少佐、平岡、佐々布を訪ひ、十一時帰。賀来来訪。
- 六月三十日 細雨。丈夫に致書す。午前理髮、西本、平川、波多を訪ふ。午後大谷を訪ふ。内人、河口介男、同虎夫の信至る。七時林出の招宴に倶楽部に列す。本多熊太郎を主賓とし、井手、佐原、宮地、平川、西本、波多、太田、上田等の新聞関係者、並に内山外一人なり。十一時散。
- 七月一日 雨。夜七時北岡海軍少佐の招宴に月廼家本店に赴く。同坐は園田少佐、佐原、波多等也。十一時散。
- 七月二日 雨。軍令部田中少将に通信を發す。神崎正助に復書す。午後胡開文に至り筆を購ひ、三井に野平、佐々布、竹内を訪ふて帰る。五時西本願〔寺〕に至り最近湖南に於て南軍の為に殺害せられし日清汽船会社員大津某の追弔会に列し、六時帰る。余洵来訪。有吉、高尾に致書す。夜横山来談。
- 七月三日 陰。小西伊十に致書す。東京留守宅に寄書す。雨。夜林出を訪ふ、不在。
- 七月四日 雨。午前佐々布父子、太田来訪。午後藤吉中佐、北岡、園田両少佐来訪。三時濟生堂に至

り菓二日分を求め、豊陽館に藤吉、北岡を訪ひ、五時帰る。

七月五日 晴、熱甚。午前土屋計左右宅に園田少佐を訪ふ、不在。帰途山成、菊池、村上宅を歴訪し、福岡宅に高橋大佐節雄を訪ひ小談、帰る。小幡惟清の信至。田中少将、神尾茂に信片を發す。午後平岡小太郎、波多来訪。山岡豊一少将、丈夫の信至る。山成来訪。

七月六日 半晴、熱甚。漢口吉田艦隊司令官の信、並に三島沅江の信至る。之に復す。井手来訪、共に出て日報社に至り、四時帰る。竹内来訪せりと云ふ。同文書院根津氏の案内状至る。七時波多宅の晚餐に赴く。藤吉、平岡、平川、西本、佐原、北岡、西本等同坐たり。精進料理の饗有り、十一時散。藤吉は今夜出發漢口に赴く者也。之に托し漢口吉田少将に復書す。夜丈夫の吉電に接し昨日男児分娩の事を知る。雄一郎と命名す。

七月七日 陰。大谷来談、兩人合作土屋員安に信片を發す。丈夫に祝電を發し弄璋を慶す。午前上海日報社に至り、晌午帰る。根津来訪。午後東京宅に安産の祝辞を發す。二階堂大尉来訪。七時佐原と自動車にて同文書院根津院長の招宴に赴く。井上雅二、福島、丸島、眞島同坐たり。井上は今夕来着せる者也。十時帰る。

七月八日 陰。井手、副島来訪。井手と佐々木病院に至り前夜階上より墜落負傷せる上田吉郎を見舞、院長頼宮博士に面して帰る。午後木村生来訪、書院卒業生三井に入社せりと云ふ。二時平川宅に赴き井手、島田、西本等と会し上田身上の事を商量して帰る。波多、二階堂来訪。安徽、直隸兩派の争切迫戦機動けりとの電あり。

七月九日 半晴。報告を作る。午後佐藤少佐、北岡少佐、林出、篠寄、二階堂等前後來訪。夜海軍に報告を發し、上海日報社に島田を訪ひ小談、帰る。二階堂来訪。井手より上田吉郎病勢危篤に陥りしとの電話有り。

七月十日 晴。朝井手、大谷来訪。上田吉郎今朝六時半死去せりととの報有り。海軍に電報にて時局の梗概を報じ、八時佐々木病院に上田を弔し入院中の菊池豊吉と小談、晌午帰る。午後郵船会社安田重雄、並に三井の竹内来訪。三時佐々木病院に至り上田吉郎の出棺を送りて帰る。夜大谷、横山を訪ふ。

七月十一日 晴。海軍に通信二通を發す。山成来訪。午後園田少佐来訪、明日より旅程に上ると云ふ。共に出て北岡少佐の処に至り小談、三時平川宅に至り上田身後の事を商量して帰る。荒賀直順より南洲翁遺訓一冊を送り来る。漢口成田鍊之助の信至る。七時西本願寺に至り上田の遺骨を安置、読経焼香、帰途波多宅に小談。荒賀、山本唯次の信に接す。荒賀に復す。

昨日崑山青陽港の鉄橋蘇州軍の為に破壊せられ交通断絶し、京漢、津浦兩線も不通にて津よりする者は德州に至て止み、浦口よりする者は済南に至て止む。北方は皖直兩軍廊房、涿洲兩地に於て交戦せりと云ふ。

七月十二日 晴。午前理髮、上海日報社に井手を訪ひ、正午帰。午後五時上田吉郎の告別式に西本願寺に列し、六時半松平郵船支店長の招宴に月廼家に列す。本多熊太郎、山寄領事、井手、佐原、兎玉、山口啓三同座たり。十時散。大正日々社細谷の電至。

七月十三日 晴。七時前より櫛丸に至り本多の青島行を送り、帰途今朝来着せる上田吉郎の弟を宝来家に訪ふ。午後中川義弥、三井藤森武雄来訪。内人、河口、大島、菅村夫人の信至る。河口に敏子安産の祝詞を發す。波多来訪。

皖直兩軍昨十二日楊村に於て始て兵火を交へ直軍白旗を揚たりと云ふ。

七月十四日 陰。成田鍊之助に復書す。山岡海軍少将に返信を發す。午後井手を訪ふ。海軍に通信を認む。

七月十五日 陰。前十時滙山埠頭春日丸に中川義弥、並に牧野を送る。二等食堂の窓より墜落し右脚を傷く。帰途日報社に小談。午後篠崎病院に至り傷を治す。篠寄来訪。晩食後傷部疼痛、床に就て静養す。夜波多夫婦来問。風烈。

- 七月十六日 風雨。横山，二階堂来訪。午後篠寄に至り受診。北岡，菊池両少佐，波多来訪。
 昨十五日朝皖直兩軍涿州方面並に廊房地方にて交戦，直軍不利。
- 七月十七日 陰，湿気甚深。東京宅，田中清司，岡幸七郎，田上二雄，高橋大佐の信至る。北岡少佐，汪益三来訪。汪を南京多賀大佐に紹介す。午後篠寄医院に至り受診，北岡を訪ひ帰る。波多，姚文藻前後来訪。岡幸七郎に復書す。夜西本来訪。
- 七月十八日 陰。井手，副島，林出来訪。丈夫，河口介男の信至る。夜佐々布，波多前後来訪。
 京漢涿州の戦殷軍大敗。
- 七月十九日 陰。宮川守善，二階堂大尉来訪。岩嵯栄蔵，井上雅二，津田静枝の信至。江商副島より静養飲料二箱を贈り来る。
- 七月廿日 陰。細川侯爵派遣生平野了英，並に波多博来訪。江商副島に礼状を發す。夜波多を訪ふ。
- 七月廿一日 半晴。海軍に報告を發す。西本来訪。夜林出，佐々布を訪ふ。
- 七月廿二日 雨。二階堂大尉，北岡少佐，大谷是空来訪。稻生の信片至。津田中佐に復書す。夜余洵来訪。八時半平岡小太郎を訪ふ。
- 七月廿三日 陰。亜細亜学生会幹事諸富一郎，並に伊藤七雄，長濱松二，小杉三郎等安達謙蔵の紹介にて来訪。晌午林出来訪。三島沅江の信至。
- 七月廿四日 陰。午前鄭垂来訪。報告を作る。午後佐原，田上来訪。土屋員安，八田厚志，田辺寛忠，甲斐多聞太，吉田寿三郎の信至る。丈夫の信至る。之に復す。吉田，甲斐，八田に復書す。
- 七月廿五日 微雨。日曜日。理髮。荒賀に致書。海軍に報告を發す。
- 七月廿六日 半晴。午前山崎領事，北岡少佐を訪ふ。波多来訪。白岩，木村丑徳に信片を發す。領事館より本月分経費を受取る。平川，波多，篠寄来訪。夜藤吉中佐を訪ふ，不在。林出の処に至り暢談，十一時帰。佐原を訪ふ。
- 七月廿七日 晴。午前井手を訪ひ，去て山崎領事に抵り小談，帰る。賀来敏夫来訪。是日宇土岡崎忠蔵に浅井寅熹退職慰問の贈品費として金若干を郵送す。海軍に報告を發す。林出，西本来訪。夜郵便局に至り，帰途波多を訪。
- 七月廿八日 晴。岡本源次に信片を發す。午後平岡小太郎来訪。門野重九郎，牧野喜久太，有蘭善行の信至る。
- 七月廿九日 晴。午前河野久太郎，井手三郎を訪ふ。河野は昨日来着せる者也。岡幸七郎の信至。有吉明に致書す。波多来訪。
- 七月三十日 半晴，昨夜熱甚。小山清次来訪。七時波多宅に至り鰻飯の饗を受く。土用の丑日たるを以てなり。鳥田と同坐たり。十時帰。
- 七月三十一日 晴。田中少将に致書す。余洵，河野久太郎来訪。七時井手の約に俱樂部に赴く。同座は税関の英人クリーエール，北岡，池田等なり。七時散ず。
- 八月一日 晴。日曜日。熱甚。海軍に報告を發す。南京多賀宗之の信，並に中島大尉，田畑亭吉，川島浪速，園田實，諸富一郎等の信に接す。岩田衛より其著遊支一瞥一冊を送り来る。川島，中島，田畑，岩田に復す。夜佐原来訪。小西伊十，白木豊の信至。
- 八月二日 晴，熱甚。晌午雷雨。内人に致書す。白木，小西に復書し，河口由次に信片を致す。
- 八月三日 晴。村上貞吉来訪。熊本深水清に致書す。北京八角三郎の信至る。八角に復す。河野久太郎を豊陽館に訪ひ，帰途波多に小談。
- 八月四日 晴，炎威如燬。細川侯爵派遣生宮本五郎来訪。午後姚文藻を訪ふ。西瓜四個贈らる。
- 八月五日 晴。海軍井出大佐に致書す。田辺豊雄の信片至る。午後波多来訪。田辺に復す。
- 八月六日 半晴。高比良勝治来訪。午後上海日報に鳥田を訪ふ。鳥居，松倉に信片を發す。
- 八月七日 晴。理髮，井手を訪ふ。中西牛郎，荒賀直順の信至。波多来訪。河口介男，古閑信夫の信，

並に宇治田直義の信片に接す。夜雨。

八月八日 陰。是日立秋。中西牛郎，河口介男，同虎夫，古閑信夫，宇治田に復書す。隅田艦長柴田源一来訪。木村丑徳，内田友義，岡寄忠蔵の信至。内田に復す。夜西本，平川を訪ふ。昨来秋意有り。

八月九日 晴。午前山崎領事，井手を訪ふ。午後林重治来訪。木村丑徳に復書す。報告を作る。夜波多を訪ふ。

八月十日 晴。八時軍艦千歳に艦長以下を訪ひ暢談，十時帰。豊陽館に吉田司令官を訪ひ，正午領事館に至り有吉の書信を領収して帰る。林重治の為に藤村義朗に紹介状を作り之を与ふ。海軍に報告を發す。夜林出を訪ふ。

八月十一日 晴。午後北岡，波多を訪ふ。田中悌二郎，高野弦雄，太田宇之助，大津民作，河口由次の信至。夜熱不能安眠。

八月十二日 半晴。土居參謀来訪。海軍に報告を發す。高野弦雄，田中悌次郎に復書す。午後鄭孝胥父子を南洋路に訪ひ暢談。帰途豊陽館に北岡少佐を訪ひ，去て波多に抵り，四時帰。平野了英来訪，留て晩食を共にす。夜波多来談。

八月十三日 陰。北京小幡公使に致書す。葉室，高森義人の信至，之に復す。午後波多を訪ひ東京宅送りの紅茶を托し，濟生堂，上海日報に至り，三時帰。日本綿花井藤幸次郎の案内状至る。之に復す。宮川守善，波多来訪。夜雨。

八月十四日 雨。午前井手を訪ひ共に波多を八幡丸に送る。晚篠寄，佐々布前後来訪。

八月十五日 晴。日曜日。午前犬を伴ひ佐々宅に至り，正午帰。河口虎夫，天野悌二の信至。午後井手を訪ふ。夜に入て秋冷掬すべし。

八月十六日 晴。丈夫の信至る。午後橋三郎，林出来訪。橋は本日北京より着せりと云ふ。七時井藤幸次郎の招宴に六三園に赴き，十時帰。

八月十七日 晴。白岩，三島沅江に復書す。午後橋三郎，井手，島田を訪ふ。小山清次来訪。内人の信至る。北京八角中佐，並に東京宅に発信す。宇土奥村傳氏死去の訃に接す。夜村上貞吉，佐々布を訪ふ。

八月十八日 晴。午前土居副官，北岡少佐来訪。午後山成来談。河口介男に発信す。

八月十九日 雨。午前理髮。北岡来訪，共に出て筆墨胡開文に購て帰る。宮川来訪。田中少将，鳥居素川，林重治の信片に接す。

八月廿日 晴。是日陰曆七月七日先妣の忌辰たり。位を設け時物を供へ祭を致す。回顧正に四十九年たり。

亡き母と齡同じき老人の尚うつゝ世にゐさせるものを

善隣書院生呼野義十，小濱孝次郎，宮島大八の紹介にて来訪。天野悌二，宝珠山彌高に復書す。夜豊陽館に土居大尉を訪ひ名刺を留め，島田に抵り小談。土居明日帰朝するを以て也。

八月廿一日 半晴。午後林出来訪。

八月廿二日 半晴。北岡少佐来訪。午前山成に抵り母堂を唁し，佐々布を訪ひ共に出て平岡小太郎，西本省三を訪ひ，正午帰。午後成田鍊之助来訪，今日漢口より来着せりと云ふ。七時井手，北岡と俱樂部に至り佐藤某の謡を聴き，十一時帰。

八月廿三日 晴。午前成田より紅茶一箱を贈り来る。成田を訪ふ，不在。井手，波多を訪ひ，正午帰。北京大毎特派員檜寄，平川と共に来訪。九時兎王謙次の帰国を税関埠頭に送る。

八月廿四日 晴。午後櫻木，大谷，井手来訪。鳥居，甲斐，河口由次の信至。報告を作る。山本副官に致書す。夜佐原来訪。

八月廿五日 雷雨。大島新，中川義弥の信片至。大島に復す。海軍に報告を發す。宇土奥村家に弔詞を發す。東京宅に発信す。六時新聞関係者十一人にて大毎特派員檜寄桂園を招き俱樂部に会食，八時賀

川某の講演を聴き、十一時帰。

八月廿六日 半晴。夜林出、成田を訪ふ、不在。佐原より糟卵を贈来。

八月廿七日 半晴。山成来訪。青島松寄に致書す。

八月廿八日 晴、残熱頗烈。午前山寄領事を訪ふ。午後櫻木俊一來訪。七時篠寄の招宴に乍浦路新月に赴く。日下、井手、河野久、成田、大谷同坐たり。九時半散。熱甚、安眠する能はず。荒賀に致書。

八月廿九日 晴、秋陽如燬。山成来訪。土井、成田より六三園招宴、之を辞す。午後平岡、佐々布を訪ふ、不在。村上夫人を訪ひ、四時帰。夜雨。

八月三十日 晴、熱甚。午前理髮、井手に小談、帰る。成田来訪、留て中食す。平岡小太郎来訪、今夕の船にて帰国すと云ふ。高橋節雄、八田厚の信、並に領事館贄川善作の手形入書信至る。磯谷少佐廉介来訪、広東赴任の途次なり。昨来風邪の気味有り。夜発汗剤を用ひ一臥。田川小六夫婦来訪。香月梅外来訪、本日漢口より来着せりと云ふ。

八月三十一日 晴。午後領事館に贄川を訪ひ其の米国行を送るの小詩一首、並に写真一葉を贈り小談、去て豊陽館に香月、成田を訪ひ暢談、成田は本夕上船帰国する者也。万歳館に磯谷少佐を訪ひ、五時帰る。夜波多宅を訪ふ。

[8月31日の日記のあとに、以下の文がはさみこまれている]

文明とは、各個人の内に潜める靈力が自然なる心の刺激を享けて生活の上に現はれたる全人類共同の生産物也。故に、何人も之か進歩に努力する義務を有すると同時に、又た之か利益を享受する権利有り。

宗教は、人間の精神生活を支配する者にして生活の最上原理也。

人間処世の第一義は、先づ生活の中心思想を見出すことに在り。

動物は自然に支配されて自然の奴隷と為り、人間は自然の力を利用して自然を征服し自然の主人と為る。

九月一日 晴。午後井手、佐原を訪ふ。呼野義幸の信片に接す。

九月二日 晴。香月梅外、戸田義雄来訪。白岩の詩信至る。之に和す。高橋節雄大佐の信至る。復書を發す。午後井手を訪ひ、去て戸田、香月、橘を豊陽館に訪ひ、五時帰る。内人、宮川守善、松倉、米内山の信に接す。余洵、篠寄来訪。

九月三日 半晴。松倉、米内山に復書す。八角三郎の信至る。午後四時より六三園に至り日清貿易研究所創立三十年紀念会に列す。土井伊八、河野久太郎、古莊弘、香月梅外、戸田義雄同席たり。食後謡曲数番を謡ひ、十時散ず。筑後丸に贄川善作の帰国を送る。暴風。

九月四日 暴風雨。

九月五日 風雨強烈。午後伊藤源七の追弔会に東本願寺に列す。海軍に報告を發す。佐々布父子来訪。夜磯谷少佐の広東行を万歳館に送り、帰途豊陽館に北岡、香月、戸田を訪ふ。

九月六日 雨。白岩の詩信至る。岡幸七郎、澤村幸夫、藤吉中佐の信至る。之に復す。熊本長江虎臣に致書す。漢口中津純人に其夫人の死を弔す。宮川守善に復す。夜香月、戸田を豊陽館に訪ひ行を送る。香月は長沙に、戸田は日本に帰るを以てなり。

九月七日 陰。午後戸田来別。午後平川清風。

九月八日 雨。午後柴田隅田艦長来訪、明朝遡江すと云ふ。夜出て柴田を訪ふ、不在。三島沅江に致書す。

九月九日 陰。櫻木俊一來訪。狩野、鳥居、松下禎二合作嵐山よりの信片至。六時菊池豊吉の晩餐に赴く。平川、佐藤、北岡、井手、二階堂、勢多等同坐たり。洋饌の饗有り。十時散ず。歩して帰る。

九月十日 雨。檜寄桂園，三嶋沅江の信至。

九月十一日 雨。北岡少佐来訪。狩野に復書す。下田佑，林重治の信至る。下田，鳥居に復す。夜佐々布を訪ふ。

九月十二日 晴。西本，山成前後来訪。午後根津同文書院長を近江丸に迎ふ。新入学生百三十余人を率て来れる者也。帰途佐原を訪ふ。岡本源二，渡辺天洋の信，並に同文書院熊本県新入学生宮本知行，白石九州男，坂本有未彦，園田次郎，太田守之助の信片至。

九月十三日 晴。理髮，林出，井手を訪ふ。御幡直来訪せりと云ふ。橘三郎来訪。夜平川を訪ふ。

九月十四日 半晴。午前河野久太郎，岡田有民来訪，同車同文書院に至り根津氏を訪ひ，正午帰。午後小山清次来訪。六時大谷是空と同車橘三郎の招宴に月廻家花園に赴く。李維格，河野，井手同坐たり。十時散。

九月十五日 陰。内人，長江の信至る。夜波多宅を訪ふ。

九月十六日 微雨。波多の信至る。愛孫の写真を送り来る。報告を作る。内人に復書す。夜佐々布を訪ふ。

九月十七日 陰。海軍に報告を發す。午後橘，河野を訪ふ。河野は明朝の筑後丸にて帰国すと云ふ。上海日報に井手と小談。長江に信片を發す。

九月十八日 半晴。正午佐原の招宴に三馬路禅悦齋に赴く。素菜席也。豊島須磨艦長，北岡少佐同坐たり。三時散。田中海軍少将，呼野義幸，河口由次，若杉要の信至る。呼野に復す。

九月十九日 晴。日曜日。正午佐原宅の午喰に赴く。篠寄，橘，井手，大谷，竹内直哉同坐たり。三時散ず。名和大将，成田，戸田，迫，磯谷少佐の信至る。横山来訪。迫良隆に復書。

九月廿日 陰。名和大将，成田，戸田，三島に復書す。午前井手，山寄，林出，山成を訪ふ。午後微雨，少時乃晴。山田謙吉，余毅民，山成来訪。六時半山田と西本主催の平川送別宴に杏花楼に赴く。篠寄，島田，村上，小山清次，岡吉次郎，佐原同坐たり。九時半散ず。

九月廿一日 晴。朝波多を訪ふ。本朝帰来せる者也。午後余毅民，波多来訪。高森良人の信至る。田上生来訪。

九月廿二日 晴。午前櫻木俊一，波多博前後来訪。午後有吉，高尾に発信す。平川夫人，平川清風来り告別。大坂毎日特派員村田孜郎来訪，平川の後任として昨日来着せる者也。六時半平川の送別会に俱樂部に赴く。出席五十余人，九時半散。

九月廿三日 陰。松倉，松井信一，辻の信至る。報告を作る。夜平川，村田を訪ふ。雨。

九月廿四日 陰。海軍に号外報告を發す。午後山内義勇隊長，平川清風来訪。井手を訪ひ四時帰。坂田長平，余洵来訪。夜に入て雷雨。

九月廿五日 晴。前八時半八幡丸に平川清風の帰国を送り，井手，林出，山寄領事を訪ふ。正午根津院長来訪。午後鉦鹿赫太郎来訪。晩余洵来談。

九月廿六日 晴。是日中秋節たり。副島綱雄来訪。午後山成，西本，佐々布を訪ふ。武藤虎太，中島眞雄，佐々信一，河口介男，軍令部，内人，丈夫の信に接す。是夜碧落拭ふが如く中秋の明月皎々として江城を照らし，虫語遠近，秋意可掬。

九月廿七日 晴。武藤虎太，佐々信一，河口介男，内人，丈夫に復書す。夜横山来訪。

九月廿八日 晴。北岡少佐，波多来訪。海軍に報告を發す。

九月廿九日 晴。小山田劍南，戸田義勇の信至る。戸田より其自製の草履一足を送り来る。午後太田誠，大連金子雪壘の紹介にて来訪。村田孜郎来談。四時半田村書記生長男の葬儀に東本願寺に列す。晩佐々布来訪，留て喰す。海軍より十，十一，十二，三ヶ月の手当を送り来る。山本副官に領収証を發す。

九月三十日 陰。東京宅に送金柴百員，井手を訪ひ，晌午帰る。余洵より中秋月餅，素麵二箱，棗一箱

を贈り来る。書院生和田宗二、山中寛太郎の紹介にて来訪。山中、金子に信片を發し、神戸中島中佐晋に致書す。午後林出の長男死去の報を得往て之を弔す。佐原に小談帰る。夜佐原来訪。小山田劍南に復書し寺内伯伝記に収録する頌詩の寄稿を辞す。

十月一日 半晴。余穀民に致書す。午後林出長男告別式に列す。奉天中島眞雄に盛京時報十五年紀念号の祝詞を送る。余洵来訪。

十月二日 陰。午前北岡を訪ふ。午後一時滙山馬頭に至り英国より帰航の珍田大使、飯田少将久恒を迎ふ。三時帰。有働政喜来訪せりと云ふ。夜波多来訪。

十月三日 晴。日曜日。午前同文書院新入学の同県学生来訪。園田郭六の二男亦其中に在り。園田の信至る。之に復し、丈夫に信片を發す。午後二時北野丸に至り珍田、飯田、水川三氏の帰朝を送り、帰途竹内直哉を訪ふ。夜波多を訪ふ。井手より九州日々新聞社本日全焼せりととの報有り。

十月四日 陰。九州日々社山田珠一、河口介男に火災見舞状を發す。迫良隆に復書す。余洵来訪。

十月五日 陰。海軍に通信を發す。午後小山清次、今井邦三来訪。六時半竹内直哉の招宴に六三園に赴く。大谷、佐原、米里同坐たり。九時散ず。山城丸に至り竹内、今井の帰国を送りて帰る。雨。

十月六日 陰。田中少将、白岩に發信す。八田厚志八幡丸にて来着、之を波多宅に訪ふて帰る。八田より松茸一簍を贈り来る。岡寄忠藏、上田賢象、津田中佐、山田純、相良忠道、園田實の信至。上田より其父の死去を報じ来る。弔詞を發す。園田少佐、津田中佐に復す。

十月七日 雨。理髮、篠寄を訪ふ。香月梅外より湘筆二十一支を送来。平川清風の信至る。香月、平川に復す。東京宅に發信す。篠寄氏より晩餐の案内有り。波多来訪。六時大谷と同車篠寄の招に赴く。井手、佐原同坐たり。十時散ず。

十月八日 陰。午前勢多左武郎来訪。三時佐原に抵り大谷、島田、山成等と麵を会食す。晚余洵、八田、竹内前後来訪。広東磯谷廉介の信、並に同文書院同窓会の信に接す。支那報界公会より案内状至る。

十月九日 陰。磯谷少佐に復書す。正午支那新聞社全体の主催に係はる神戸実業団体招待会に三馬路小有天に赴く。神戸商業会議所会頭村新吉、副会頭本多一太郎以下十七人を主賓とし山寄領事、林出、佐々布、安原等同坐たり。三時散。実業団中に福原芳次在り。二十余年前の旧知也。村田孜郎及び久原の村川善美、久保田正三来訪。六時雲南省渡日視察団歓迎会に倶楽部に列席す。团长李培元以下十九人来臨。主賓七十余人。九時半散。

十月十日 陰。日曜。是日支那双十節たり。井手友喜の帰来を聞き行て之を訪ふ。鄭孝胥、姚文藻に詩信を發す。

十月十一日 陰。午前井手友喜来訪。三井に竹内勝太、佐々布を訪ひ、晌午帰る。同文会、田鍋、東京宅に致書す。村田孜郎来訪。内人の信至る。高尾亨に致書、神州日報の件を交渉す。西本、横山前後来訪。門野重九郎より其近著を送り来る。門野に致書す。

十月十二日 晴雨不定。午前山井格太郎を訪ひ其帰国を送り、北岡少佐の処に小談、去て上海日報に至り、晌午帰る。姚文藻来訪。正午井手の招に一品香に赴き電報通信社員某、西本、波多、島田、八田、岡吉、井手兄弟と会食し、散後井手と姚文藻を訪ひ、四時帰。余洵、西本、村田、林出来訪。夜池田旭、波多博来訪。

十月十三日 半晴。午前池田旭、鄭垂来訪。大坂平川清風の信至る。午後北岡、井手を訪ふ。晚佐々布来訪、共に出て独乙潜水艇の運送船撃沈の活動写真を見る。平岡小太郎、山田珠一の信至。

十月十四日 快晴。午前井手、三田宗治郎、宇田川大尉英庸、山成来訪。平岡に復書す。午後篠寄来訪。大正日々社より清算配当の事を通知し来る。大坂佐野直喜に致書、受取方を依頼す。内人に信片を發す。

十月十五日 晴。帝大政治科生栗屋秀夫来訪。終日報告を作る。海軍に報告を發す。

十月十六日 晴。午前波多，八田を訪ふ。石寄良二来訪せりと云ふ。石寄に信片を發し，櫻井俊一，梅野實の請帖至る。田中少将，竹内，白岩，中畑に詩信を發す。河口介男，丈夫の信至る。夜村上，佐々布，武田を訪ふ，皆不在。山成に抵り九時帰。

十月十七日 快晴。日曜日。午前初て北郊に獵す。無所獲，正午帰。午後山成，石寄來訪。山成，井手と新泰の汽船にて浦江を下り軍艦嵯峨に梅田艦長を訪ひ，三時半帰。香月梅外の信至。七時満鉄櫻木俊一，梅野實の招宴に六三園に赴く。同座三十余人。十時散ず。大連振栄学社太田誠の信至。

十月十八日 晴。三田宗治郎來訪。午後波多，井手を訪ふ。夜佐々布に抵る。

十月十九日 晴。海軍に發信す。山成來訪。午後村田孜郎，北岡少佐前後來訪。夜小山，櫻木來訪。

十月廿日 晴。是日陰曆重陽。午後藤村義朗を八幡丸に迎へアストルハウスに至り小談，帰る。午後四時三田，石寄と高慶堂の汽船に乗じ平湖に獵せんとす。四時十八分開船。多賀大佐來訪。

十月廿一日 快晴。前二時平湖着。七時小舟を賃し内河に入り獵す。午後三時原船に帰り四時半開船。

十月廿二日 晴。前七時上海着。河口母堂，内田友義夫人の訃に接す。直に両家に弔電を發す。山中寛太郎，松倉善家の信至る。午前理髮。午後姚文藻，山成，佐原，藤村義朗，岡田有民，賀来，武藤虎太來訪。武藤は昨日來着せりと云ふ。岡幸七郎の信至る。後藤豊彦，副島，余洵來訪。夜武藤を豊陽館に訪ふ，不在。

十月廿三日 快晴。井手來訪。明日根津還曆祝賀会に列席する能はざるを以て，井手に托し祝儀一封を贈る。日高進來訪。松倉に復す。佐々布來訪。丈夫の信至る。香月，岡に復書す。八田來訪。七時馬車車站に至り武藤虎太の蘇州より帰るを迎へ，同車四馬路杏花樓に至り會食し，伴て東和洋行に帰り暢談，深更に及で就寝。

十月廿四日 快晴。日曜。是日同文書院創立二十年紀念会と根津院長還曆祝賀の催有りしも事故を以て行かず。北岡少佐，二階堂大尉來訪。九時武藤を税関埠頭に送る。歐洲行の若狭丸は明日出港するものなり。北京中畑栄の詩信と田鍋安之助の書簡に接す。内田友義，河口介男に弔詞を發し，東京留守宅に致書す。外務省有吉，高尾に致書す。佐野直喜の信至る。之に復す。

十月廿五日 晴。午後八田，波多，篠寄，西本來訪。河口由次來訪。晚井手の招邀に赴く。藤村，篠寄，鈴木，島田，佐原，日高同坐たり。十一時散ず。余洵，田上二雄來訪。田上の久原入社を保証す。大連大澤龍二郎，大田誠に致書。大澤の自著王陽明学伝を贈りしを謝す。

十月廿六日 晴。川崎柴山，末永一三の紹介にて來訪。三十年前の知人なり。午後犬を伴ひ兵頭獸医に抵り前足の傷処を切解治療し，帰途波多に小談帰る。根津院長より廿八日晚餐の案内状至る。晚林出，二階堂，余洵，八田前後來訪。

十月廿七日 晴。午前井手を訪ふ。鄭垂來訪。午後犬を伴ひ兵頭に抵り治療す。六時佐藤少佐の招宴に俱樂部に赴く。方樞，居正，胡漢民，馬鳳池，陳幹，北岡，二階堂，西本，鳶同坐たり。散後樓上に觀劇。十時帰る。内人の信二通に接す。報告を作て深更に至る。

十月廿八日 健晴。午前軍艦千歳に赴かんとして船便を失し，北岡の処に小談，去て川崎柴山を万歳館に訪ふ，不在，十時帰る。吉富直純，坂田長平來訪せりと云ふ。坂田より豹皮一枚を贈らる。午後鄭垂，小山清次來訪。名和大将に致書，其令息の婚事を祝す。坂田長平に礼状を發す。四時より電車同文書院に至り根津の招宴に列す。井手，土居，福岡，友野，青木同席たり。九時散。

十月廿九日 快晴。朝理髮，吉田司令官を豊陽館に訪ひ暢談，晌午帰る。報告を作る。波多，太田來訪。海軍に報告を發す。六時藤村義朗の招宴にアスターハウスに赴く。來客五十余人。八時食堂に入る。九時半散ず。

十月三十日 快晴。八時藤村を車站に送る。南京を経て漢口，北京地方に赴く者也。佐々布來訪。正午井手三郎の帰国を春日丸に送る。午後犬を伴ひ兵頭に至り再び右前脚を切解し草実三粘を發見す。東京日々新聞社川島正次郎來訪。神生教壇主宮寄虎之助，大連金子雪壘の紹介にて來訪。土井伊八來り

螃蟹を贈る。

十月三十一日 雨。天長節。前十時領事館に聖影を拝す。夜波多，八田を訪ふ。

十一月一日 快晴。前十一時半より天長節祝賀のレセプションに領事館に参列す。内外人の参列者極めて多し。零時半散す。午後犬を伴ひ兵頭に至り治療す。平野了英の信至る。夜坂田長平，佐々布を訪ひ，十一時帰。平野に復書す。

十一月二日 晴。終日在家。波多来訪。

十一月三日 晴。日下郵便局長明治神宮鎮座記念郵便切手二枚を贈り来る。礼状を發す。余穀民北京行に付き船津辰一郎，西田耕一に紹介状を認む。午後佐原，北岡，篠寄，村田，太田を歴訪す。吉田司令官の案内状，並に熊本教育会の信に接す。夜余洵来訪。

十一月四日 晴。上海日報社に至る。松岡千壽，浅井寅熹，賀来敏夫，田中少将の信至る。六時郵船会社松平の晩餐に大東旅社に赴く。臼井哲夫，佐藤少佐，藤井，山口，外二人同席。九時散。

十一月五日 晴。朝佐々布来訪。軍令部に発信す。午後波多，余洵来訪，余は明日より北京に赴く者なり。

十一月六日 晴。岡幸七郎の信片至る。長江，松倉に信片を發す。六時吉田司令官の宴に大東旅社に赴く。同坐山崎領事，佐藤，北岡両武官，林出，櫻木，佐原，松平，菊池，二階堂，川村，内山，武田，米里，日下及主人側司令官，千歳艦長以下，参謀，副官等なり。九時散す。

十一月七日 晴。日曜日。内田友義，立花政樹の信至る。立花に復す。夜武田寛次郎を訪ふ。

十一月八日 陰雨。午前臼井哲夫来訪。丈夫，檜寄観一の信片至る。五時臼井の香港行を税関埠頭に送る。六時杏花楼に熊本県派遣の教育家九名を招き会食す。主客合て二十八名。九時散す。佐々布来訪。

十一月九日 雨。夜井手友喜来訪。八時佐々布を訪ひ，十時帰。

十一月十日 陰。理髪。午後北岡少佐来訪。夜波多を訪ふ。

十一月十一日 陰。報告を作る。波多，平岡前後来訪。平岡は昨日帰来せりと云ふ。伊達源一郎，三島生の信至る。

十一月十二日 晴。海軍に報告を發す。午後北岡少佐を訪ふ。夜村上某来訪。伊達源一郎，岡幸七郎に致書す。

十一月十三日 快晴。今夕より守田，佐々布，石寄，米田等と出獵せんとす。猟装を治す。波多，平岡来訪。漢口瀬川領事，岡幸七郎に致書。丈夫に信片を發す。四時半税関埠頭に至り上船，五時船を出す。

十一月十四日 快晴。未明船虹霓に達す。七時上陸打獵。午前雉子二羽を獲，正午帰船中食。午後獲る所無し。五時発船。

十一月十五日 半晴。前四時上海着，六時帰寓。岡幸七郎の信に接す。西本，綾野，山成来訪。午後村田孜郎来訪。犬を野平の処に貸す。六時遣外艦隊司令官以下の招待会に倶楽部に出席す。主賓三十人許。十時散。

十一月十六日 陰。台湾日々新聞員小野眞盛来訪。中食後熊本教育会派遣の江川，二神以下九人と同県人数名にて公園に撮影す。一行は今夕上船帰国する者なり。佐原を訪ひ雉子二羽を贈る。午後山成来訪。夜林出，波多を訪ふ。

十一月十七日 陰。正午佐原宅に至り北岡，石寄，山成，山口昇と会食す。山口青島税関に転任に付き恭親王に紹介す。平岡小太郎来訪，今夜出発北京，満洲，朝鮮經由にて帰国すと云ふ。篠寄，八田来訪。宮島より鎮海観音第六回供養会本月廿三日挙行の通知に接し金五円を寄附す。十一時平岡の北行を車站に送る。

十一月十八日 陰。山内崑の信至。村田孜郎来訪。午後波多を訪ふ。北京山内崑に復書す。夜佐々布を訪ふ。

十一月十九日 雨。八田来訪。午後波多来訪。長崎渡辺知事の案内状至。
十一月廿日 晴。午前武田寛次郎、佐々布来訪。午後出て帽子を購ひ、島田と小談、帰る。
十一月廿一日 晴。理髪、波多に小談。午後姚文藻の新宅を訪ふ。六時佐原を訪ひ、共に出てアスターハウスの渡辺知事一行の招宴に列す。九時半散ず。
十一月廿二日 晴。松倉、本山義人、内田友義、湯川夏生の信至る。午後林出を訪ふ。湯川に復書す。橋川時雄、野満、松寄の紹介にて来訪。岡幸七郎、白岩龍平、長江虎臣の信至る。岡幸七郎に復書し、東京伊達源一郎に発信す。篠寄来訪。夜波多を訪ふ。
十一月廿三日 雨。午前篠寄、上海日報社を訪ふ。山田謙吉来訪。午後林出、波多来訪。
十一月廿四日 陰。前八時の汽車にて篠寄、波多、太田三人と紅葉を天平山に賞せんと欲し蘇州に向ふ。十時着、東洋堂の小島某来迎。馬車留園に至り、舟に乗り楓橋を過ぎ寒山寺を左に望み西に向て進む。兩岸の風景愈よ西して愈可。十二時舟を捨て山坡に入り一時天平山の寺觀に達す。楓樹の古木、松林の間に点綴し紅黄色を競ひ秋風掬す可く恰も倪画の趣有り。中腹の山寺に登り茶を啜て小憩、一絶を壁に題して山を下り、二時原船に帰り蟹を煮て中食し、船を發し蘇州に帰る。五時十分閩門着、馬車を駆て車站に至る。五時發の汽車延着の為辛ふして之に乗ずるを得たり。八時半上海着、一行と別れ寓に回る。河口介男、河口愛子、狩野、鳥居、海軍、岸田完吾の信に接す。
十一月廿五日 晴。午後千歳艦長平岡大佐、機関長山口中佐来訪、近日呉に転任すと云ふ。臼井哲夫来訪、本日馬尼刺より帰來せる者。夜報告を作る。大谷来談。
十一月廿六日 快晴。篠寄来訪。海軍に報告を發す。鳥居に復書す。午前臼井哲夫を訪ひ、去て北岡、波多に抵り、正午帰。山内崑、石橋藤次郎の信至る。之に復す。撰津池田町林田松三郎の求に依り其詩韻に次して之を送る。河野久太郎の其長女を弔す。
十一月廿七日 陰。今夕より三井一行と浙江に出帆せんとす。装を治す。波多来訪。伊達源一郎の信至る。五時税関埠頭に至り上船、野平、守田、立川、佐々布、米田同行たり。
十一月廿八日 晴。前四時半平湖着。七時半升階橋棹船、上陸獵区に入る。午前雉子一羽を獲て之を失し、正午帰船。午後一射せず終日獲る所無し。五時船を發す。
十一月廿九日 陰。未明船上海に達す。六時半寓に帰る。平岡小太郎の信に接す。姚文藻来訪。波多来訪。
十一月三十日 陰。午後一時半汽艇にて軍艦千歳に吉田司令官、平岡艦長を訪ひ、四時帰る。内人の信に接す。大正日々新聞社第二回払戻の通知状を送り来る。内人に復書す。夜山口機関大佐の帰国を山城丸に送る。
十二月一日 半晴。井手友喜来訪。午後海軍に発信。雨。
十二月二日 雨。午後二時滙山碼頭春日丸に千歳艦長平岡大佐の帰朝を送る。夜波多来訪。内人に信片を發す。
十二月三日 陰。岡幸七郎の信至る。海軍に報告を發す。北岡を訪ふて帰る。村田孜郎、波多博来訪。夜佐々布を訪ふ。
十二月四日 雨。午前有吉、日置を迎ふ。有吉は瑞西公使赴任の途次なり。夜河口由次、外一名来訪。河口母堂に復書。
十二月五日 雨。日曜日。副島綱雄来訪。午後豊陽館に有吉を訪ひ、去て北岡少佐の室に至り、吉田司令官、林出、菊池豊吉と暢談し、五時有吉公使を税関埠頭に送て帰る。佐藤少佐の案内状、並に丈夫、亀井、實相寺等の信に接す。
十二月六日 雨。余洵来訪。杏仁二箱と蜜棗を贈る。
十二月七日 陰。理髪、波多を訪ひ小談。午前先施公司に至り臘腸二連を購ひ、之に杏仁一箱を加へ賀來敏夫の帰京に托し留守宅に送る。篠寄来訪、明日の船にて一時帰国すと云ふ。内人に信片を發す。

- 賀来, 八田来訪。夜波多を訪ふ。八田, 賀来, 村田来会。九時半篠寄を近江丸に送る。岡幸七郎, 船津辰一郎の信至る。
- 十二月八日 半晴。鄭垂来訪。岡に復書す。鳥羽艦長猪瀬乙彦来訪, 広東駐在を命ぜられ近日出発すと云ふ。六時二階堂大尉の送別会に倶楽部に出席, 十時散。
- 十二月九日 陰。林田炭翁, 並に内人の信至る。大正日々社第三回払戻金三円を送り来る。午前千歳艦長遠藤格, 同機関長墨田良定, 参謀尾崎剛来訪。内人に復書す。海軍に通信す。六時坂田長平宅の晩餐に赴く。島田, 西本同坐たり。十時帰る。
- 十二月十日 微雨。宮寄虎之助の信片至る。午後軍艦千歳に至らんとし汽艇来らざるを以て中止, 豊陽館に北岡, 賀来を訪ふ。海軍に通信を發す。米内山, 八田来訪。宮寄虎之助に復書す。夜高尾亭を車站に迎ふ。
- 十二月十一日 雨。前十時猪瀬乙彦を竹島丸に送り, 北岡, 菊池両少佐と軍艦千歳に吉田司令官, 遠藤艦長, 黒田機関長を訪ひ, 中食の饗を受けて帰る。三時山寄総領事, 高尾亭, 不破瑳磨太, 米内山庸夫, 林出賢二郎, 波多博来訪, 東方通信社の事を商量す。岡幸七郎の信至る。
- 十二月十二日 陰。日曜日。午前高尾, 不破を豊陽館に訪ふ。岡幸七郎に復書す。余毅民来訪, 高尾に本人を紹介す。六時佐藤少佐の宴に倶楽部に赴く。二階堂大尉転任と其後任者鈴木大尉を紹介の為なり。会する者三十余人。九時半散ず。亀雄, 上妻博路, 熊本教育会の信至。
- 十二月十三日 快晴。臼井哲夫の信至る。写真を送り来る。上妻, 臼井, 亀雄に復書し, 留守宅に信片を發す。上妻は英国に在る六年新近帰来せる者なり。新橋栄次郎の見舞金拾円を小川節の処に送る。余洵, 岡田有民来訪。六時山寄領事の招宴に倶楽部に赴く。高尾亭以下, 領事館員, 並に新聞記者十余名来会。九時半散。
- 十二月十四日 快晴。香月梅外来訪, 昨日長沙より帰来せりと云ふ。平岡小太郎に發信す。尾田満来訪。夜香月, 林出を訪ひ, 十時半林出と近江丸に高尾亭, 二階堂, 尾崎の帰国を送る。
- 十二月十五日 快晴。午後園田有民を訪ひ, 去りて北岡少佐の室に至り吉田司令官と談じ, 五時帰る。是日名和大将と留守宅に冬筍を小包にて送る。内人の信至, 之に復す。名和氏に信片を發す。湯川夏生の信至。夜佐々布来訪。
- 十二月十六日 陰, 午後微雨。余洵来訪。六時興華川の四川菜館に山寄領事, 不破瑳磨太, 米内山庸夫, 林出, 日下, 川村, 内山, 佐原等を宴す。九時半散ず。帰途通信社に至り小談。
- 十二月十七日 雨。午後有封年賀郵便数十通を發す。不破, 波多来訪。午後豊陽館に北岡, 香月, 賀来を訪ふ。賀来来訪。豹皮一枚を賀来の帰京に托し留守宅に送る。夜岡田, 賀来, 不破, 香月の帰国を送る。夜佐々布来訪。報告を作りて深更に至る。
- 十二月十八日 快晴。報告を作る。午後波多を訪ひ小談, 理髪して帰る。平岡の信片至る。大谷是空来別, 今日便船にて帰国する者也。夜波多来訪。年賀状を認む。就寝後咳嗽起り吐血。
- 十二月十九日 晴。日曜日。八田来訪。午後北郊に猟し鶉二羽を獲, 四時半帰。余洵来訪。
- 十二月廿日 晴。海軍に報告を發し, 午前四時吐血, 朝食時に至りて止まず。原医士に至り診察を受く。深田十蔵来訪。午後床に就て静養す。宮川守善, 小林捷太の信, 並に旧友熊谷直亮本月十二日朝死去の訃至る。午後より咯血止む。
- 十二月廿一日 晴。小野眞盛の信至る。熊谷未亡人に弔詞を發し奠儀五員を送る。小山清次来訪。海軍より一, 二, 三, 三ヶ月分手当を送り来る。領収証を發す。三島生の信至。
- 十二月廿二日 晴。午前原, 秋田両医士の診察を受く。
- 十二月廿三日 快晴。内人に致書し金三百円を滙送す。午後遠藤千歳艦長来訪。佐々布来訪, 留て晩餐す。
- 十二月廿四日 晴。篠寄医院に至り受診, 帰途波多を訪ふ。深田十蔵来訪。是日晚刻より三井一行と海

塩に猟せんとす。病を勉て装を治す。五時税関埠頭に至り上船。野平、守田、柳田、立川、佐々布、米田同行たり。夜に入て月色高潔。

十二月廿五日 快晴。未明船白亭鎮に達す。七時上陸海塩県に向て進む。十時北門外の慶豊橋に達し船に入る。雉子三羽、鶉一羽を獲、正午船を高橋に移し、白亭間を猟す。雉子一羽を獲、四時帰朝。

十二月廿六日 快晴。七時半上陸北王橋間を猟し雉子一羽を獲、十時船に帰る。午後雉子一羽を獲、四時帰。六時開船帰途に就く。二日間の獲る所雉子六羽、鶉一羽たり。

十二月廿七日 陰。未明上海着、七時寓に帰る。細谷、小川、亀雄の信に接す。篠寄宅より鶉の糟漬一缶、副島綱雄より煙草十缶、辻源九郎より酒二瓶、縮緬一卷を贈り来る。午前篠寄医院に至り受診。

午後五時半佐藤少佐、鈴木大尉と同車上海日報社の忘年会に杏花楼に赴く。同座三十人。九時散。雨。

十二月廿八日 雨。午前北岡少佐来訪。篠寄夫人、副島に年末贈品の礼状を発す。北岡、副島、辻、波多、古賀に猟獲の雉子を分贈す。井手、副島、波多来訪。

十二月廿九日 雨。午後根津を迎へんとして及ばず、上海日報社に小談、去て北岡少佐、並に東方通信社に小坐、五時帰る。文学士黒田源次、狩野直喜、八角三郎の添書を持参来訪、故有馬源内の二男なり。岡崎文夫亦た黒田と共に来訪。橘仁太郎、波多、村田等来訪。

十二月三十日 雨。午後理髮、島田、井手を訪ふ。四時余洵来訪。石井則之、中島増登来訪。各歳暮の礼として菓子を贈る。夜河口由次来訪。

十二月三十一日 陰。北岡少佐来訪、煙草を贈る。中央新聞編輯長小山内大六来訪。上海日報、通信社を訪ふ。夜波多に抵り小談。山口啓三来訪、鮭筋子一樽を贈る。是日大正九年尽日たり、一燈夜を守りて残年を餞す。

3. 大正 10 年 1 月から 12 月までの日記

大正 10 (1921) 年の日記は、9 年 9 月 1 日から 10 年 8 月 18 日までの一綴じの一部と、10 年 8 月 19 日から 11 年 12 月末までの一綴じの一部からなっている。

前年 6 月以来上海に留まり、元日から鳥撃に出かけて 1 月に計 4 回、2 月に 1 回を数え、4 月下旬から 9 月初めまで帰国して上海に戻ってからは、11 月に 4 回、12 月に 2 回出かけている。鳥撃に適する季節を選んでのことであろうが、いずれも寒い時期で身体にはこたえるものがあろう。前年帰国した折に腎臓の診療を受けているが、この年 2 月にも篠寄医院で診察を受け、検尿の結果「腎臓の故障たるを知」り (2 月 22 日)、数回診てもらっているし、今回の帰国中にも前年同様に血圧その他の治療を受けている。しかし、そうであってなお鳥撃も宴会の付き合いも相当数に上っており、体調を考慮しているようには見えない。

帰国前の上海での人との交流についてそのいくつかを見ると、2 月 12 日に根津東亜同文書院長の招宴に参加しているが、それは新たに副院長に赴任した石川一を関係者に紹介するものだった。2 月 14 日には、大谷光瑞を蘇州河に碇泊した船宿に訪ねている。また、広東に向かう前の宮崎滔天からの名刺を 3 月 7 日に受け取った後、同月中に上海に戻った宮崎に 2 度会った。3 月 12 日には国際通信社の古野伊之助が訪ねてきた。古野は、宗方が 1923 年に亡くなったあとではあるが、26 年になって東方通信社と合併して日本新聞聯合社 (聯合) が結成される際にそれを進めた人物である。さらに、3 月 19 日には鄭孝胥に会い、3 月末から 4 月にかけて 3 度作家の芥川龍之介に会っている。芥川は当時大阪毎日新聞社員であり、その海外視察員として中国に派遣されて上海に立ち寄っているが、それは同じく毎日新聞社員として前年から上海に駐在して宗方と接触があった村田孜郎の紹介があつてのことであろう。

4 月下旬に帰国した後の宗方は、海軍省、外務省、東亜同文会を訪ねているのはいつも通りとして、それまでと違うのは前年東京に置かれた東方通信社に何度も出入りしていることである。帰国する前、

1月3日に「東京東方通信社より歳暮として金二百円を送り来る」と記しており、帰国後まもなく4月30日に「日吉町東方通信社に伊達、不破、野村、大枝等と会し」、5月にも何度か伊達らと語らっている。その後6月21日まで熊本に滞在して東京に戻ってからも、23日に「東方通信社に至り〔支部長会議に出席するために〕支那各地より来会せる支社長、岡、波多、横山、佐藤、藤澤、八田、並に本社諸人と会し」、その際に開かれた宴会には「伊集院大使、田中、廣田、高尾、以下外務省情報部の官吏」も出席したと記している。ここに名前がある「廣田」は廣田弘毅を指すのであろうが、宗方が中心になって上海に創立した東方通信社に始まり、1920年に伊達源一郎らが東京に創立した同名の組織への拡大の経緯、さらに26年の聯合への再編等々、筆者によく分かっていない事情については、今後の課題にしたい。

9月上海に戻る際は萱野長知と同船で、彼が11月に帰国するまで数回会っている。2月に会っている大谷光瑞とは10月14日にも会い、3月に会っている鄭孝胥とは11月8日にも会っている。11月5日には、2月にお披露目の会をしたばかりの東亜同文書院副院長の石川一が脳溢血で亡くなり、数日後の告別式に参加。この年海軍軍令部に提出した報告は、帰国前には中国の政局に関するもので占められているのに対し、10月以降の報告では、政局に関するものと山東問題に関するものと相半ばする。

ここで、大正10年に海軍司令部あてに送った宗方の報告の日付と号数を、前年と同じ要領で『文書』中の記載と対照しつつ、日記から拾い出す。

1月11日、第580号「支那政局の崩壊」。2月6日、第581号「支那政局の停頓」。2月16日、第582号「西南実力派の崩壊と現下の政況」。3月11日、第583号「支那政局概観」。4月4日、第584号「総選挙の経過並に現状」、但し『文書』に載る報告の日付は4月1日となっている。4月12日、第585号「広東の総統選挙・六省連防の件」。9月9日、第586号「支那政局の概観」。9月13日、第587号「廬山会議の前途」、第588号「山東問題と太平洋会議に対する輿論の傾向」。9月20日、第589号「太平洋会議と支那の国情」。9月22日、第590号「支那政局概観」。10月4日、第592号「太平洋会議支那代表団の出発と輿論」、第593号「商教連合会」。10月16日、第594号「商教連合会議（全国商会全国教育会）。11月2日、第595号「支那政局概観」、第596号「国民外交大会」。11月13日、第597号「政局の近情」、第598号「全国国民外交大会」。12月2日、「報告を作る」とあるが、『文書』にも上海所蔵にも該当する記載はない。しかし、もし確認ができれば、報告の第599号、600号に該当する内容であろう。12月5日、601号「山東問題に対する各団体示威運動」。12月8日、第602号「国民外交大会の対外宣言」、第603号「呉佩孚の時局観」。12月13日、第604号「国民外交大会の失敗」、第605号「江蘇自治会の徐世昌に対する詰問」。

正月元日 陰。早起服を改め東天を拝し屠蘇雑煮を用ひ、午前九時波多、八田等と山寄領事に抵り賀正し、去て領事館に赴き聖影を拝し、上海日報社、篠寄医院、豊陽館、佐原に名刺を投じ、正午日本人倶楽部の互礼会に臨み、散後帰寓、狐装を治す。東京宅に賀章を發す。午前山寄領事の処より同文書院に至り根津院長を訪ひ賀正、帰途野平道男に抵り小叙。領事館の遥拝式に赴く。波多、八田、村田同伴たり。井手、島田、綾野、立川、田辺輝五郎、藤島忍、橋仁太郎、波多、村田、八田、小山等來賀。狄葆賢より三希墨宝一冊を贈り来る。三時半狐装を治し税関埠頭に至り上船、四時船を出す。野平、守田、佐々布、米田、並に上海紡績会社の黒田、兎玉同行たり。

正月二日 大雪。船を平湖の東塘橋に泊し、九時雪を衝て上陸。飛雪滿天祁寒不可堪。正午船に帰る。午後再び狐区に向ふ。五時帰船。無所獲。夜風雪の為に船を出す能はず。

正月三日 陰。早起窓を推て望めば積雪兩岸を埋め風致不可状。六時開船上海に向ふ。午後四時上海着、一行に別れ寓に帰る。黒田源次、小倉清三郎來訪。東京東方通信社より歳暮として金二百円を送

り来る。

正月四日 雪。午前黒田源次，小倉清三郎来訪，留て中食す。内〔人〕の信至る。東京通信社に金子領収証を送る。波多，辻来訪。

正月五日 大雪。午前米内山，北岡を訪ふ。鄭垂来訪。午後宮崎虎之助来訪。内人の賀状に接す。佐藤少佐，鈴木大尉来訪。

正月六日 半晴。内人，並に菅村夫人の信に接す。文学士岡寄文夫来訪。夜佐原，通信社を訪ふ。

正月七日 陰。留守宅に発信す。木村来訪。六時山崎領事の招宴に赴く。吉田司令官，遠藤大佐，以下海軍将校と佐藤，鈴木の陸軍武官，日下郵便局長，領事館員同坐たり。十時半散。

正月八日 陰。河口由次の帰国に托し留守宅に鮭筋子，鵜糟漬，棗を送る。十時北岡少佐，山本条太郎を春日丸に送り，帰途佐原を訪ふ。夜佐々布，武田，波多を訪ふ。

正月九日 快晴。日曜日。三井銀行土屋計左右より甘納豆を贈り来る。午後佐藤少佐，遠藤保雄，勢多，土井伊八宅を歴訪す。夜小山内大六，横山六輔来訪。

正月十日 雨。井手三郎，長江，松倉に発信す。晩余洵，小山内大六，西本省三来訪。名和大將の信至る。報告を作る。

正月十一日 陰。井手清，村田孜郎来訪。終日報告を写す。午後五時海軍に報告を發し，副本吉田司令官に送る。夜佐々布来訪。

正月十二日 晴。午後理髮後通信社，辻源太郎を訪ふ。八田来訪。

正月十三日 雨。余洵来訪。

正月十四日 晴。午後通信社に至る。岡幸七郎に発信す。晩八田，余洵来訪。

正月十五日 晴。小山内大六を訪ふ。海軍に勢力系統図を送り，通信社よりの送金二百員を郵便局より受取て帰る。吉井某来訪。

正月十六日 晴。日曜日。午後西郊に獵す。道路泥濘行走甚難。三時帰。西本，小山内来訪。五時小山内同伴三馬興華川に東方社新年宴に赴く。佐原，村田，林田，小山内，小山，太田，八田，波多，以下二三人相会。九時半散。

正月十七日 陰。小山内来訪。平川清風の信至，米国に漫遊本日を以て起程の事を報じ来る。五時余毅民来訪。其東道にて三馬路消間別墅に至り，小山内と三人晩食し，散後神州日報社に小談，十時帰。香港松島宗衛，広東森岡正平に書を作り小山内を紹介す。

正月十八日 晴。波多，村田来訪。午後余洵，林出，小山内来訪。菅村の信至る。之に復し，鑄方徳藏，東京宅に致書す。夜佐々布来訪。長江虎臣の信至。

正月十九日 晴。小山内来別，本日広東に赴く者也。内田友義の信至る。之に復す。

正月廿日 晴。東京北岡少佐の信至る。之に復す。大坂辻源助より鮎の甘露煮を送り来る。夜佐々布を訪ふ。

正月廿一日 半晴。宮崎虎之助来訪。午前櫻木，佐原を訪ふ。根津氏より其還曆の写真を送り来る。午後篠寄，宮崎来訪。

正月廿二日 快晴。午前櫻木来訪。是夕より三井の一行と浙江に出獵せんとす。午後獵装を治す。岡幸七郎の信至る。成田鍊之助より菓子一箱を送り来る。本日東京より来着せる者也。五時税関碼頭に至り上船，五時二十分發。野平，黒田，守田，立川，佐々布，米田同行たり。

正月廿三日 晴。前六時四顧橋に着す。七時半上陸，午前雉子一羽を獲たるのみ。午後獲る所無し。五時転塘橋を發す。

正月廿四日 晴。前四時上海着，七時半一行に別れ帰寓。平岡小太郎来訪。河口介男の信至。午後波多，西本，八田，余洵来訪。

正月廿五日 陰。午前理髮，篠寄，東方社を訪ふ。迎英輔来訪せりと云ふ。河口介男に復書す。夜迎英

輔来談。

- 正月廿六日 快晴。波多，八田来訪。晚平岡，迎を招き獵獲物を会食す。新橋栄次郎の信至る。新橋，成田に致書。
- 正月廿七日 晴，風強。黒田源次，河口由次の信至る。午後櫻木俊一來訪，共に出て姚文藻を訪ひ，二時帰。亀雄に復書す。夜波多来訪。出て佐々布を訪ひ，十時半帰。
- 正月廿八日 微雨。海軍に通信を發す。晚八田厚志の広東行を波多宅に餞す。波多，八田両夫婦，島田，林出，西本，橘等同坐たり。十時散ず。
- 正月廿九日 晴。午前井手友喜，午後吉田中将，竹内勝太，横山六輔来訪。
- 正月三十日 快晴。午前八田厚志，眞道黎明来訪。八田は今夕広東に赴く者なり。内人の信至る。午後北郊に獵す。無所獲。夜進〔眞〕道を伴ひ井手を訪ふ。
- 正月三十一日 快晴。根津一，宮永祐雄，井手友喜，余洵来訪。夜佐原より米国産林檎を送り来る。吉田司令官に致書す。東方通信社に至り小談。是日海軍よりの送金を台湾銀行より受取る。成田に致書す。
- 二月一日 晴天。午後春申社に西本を訪ふ。深田十蔵の信至る。井出大佐に信片を發す。夜佐々布，波多来訪。佐々布を留め晩食す。夜更雨。
- 二月二日 雨。晚遠藤保雄の送別会に小有天に出席す。同坐は林出，西本，坂田，平岡，戸牧，藤富，山口，波多，瀬浪，後藤，眞島等十余人也。九時散。飛雪繚乱。
- 二月三日 朝雪，晌午放晴。内田友義，深田十蔵の信至。内田，菅村に致書す。
- 二月四日 晴。佐原に中食，猪肉の珍味有り。夜眞道黎明来訪。
- 二月五日 快晴。朝眞藤来別，北京に赴く也。午前鄭垂来訪，一昨北京より帰来せりと云ふ。岡田の信至。之に復す。報告を作る。櫻木俊一，篠寄，佐来訪。
- 二月六日 晴。日曜日。副島綱雄来訪。海軍に報告を發し，東京宅に致書す。河口虎夫の信至る。午後林出来訪。夜佐々布を訪ふ。
- 二月七日 晴。午前理髮。是夕より浙江に出獵せんとす。装を治す。上海日報社に小談。岡幸七郎の信至。四時半税関碼頭に至り上船。野平，守田，柳田，石寄，佐々布，中村，米田同行たり。五時半開船。
- 二月八日 晴。前七時白苧に達し，朝食後獵区に入る。雉子一羽，鶉一羽を獲，午後船を嘉興運河に移す。是日陰暦元日。
- 二月九日 陰。七時船を海塩県西門外の朱氏祠堂の前に移し上陸。午前雉子一羽を獲，中食後又た出獵，獲る所無し。晩船を移動す。
- 二月十日 陰。朝船を白苧に移す。獲る所無し。午後又た東塘橋に移泊し上陸，打獵。獲る所無し。四時帰。船直に帰途に就く。
- 二月十一日 微雨。紀元節。前二時上海着，七時半一行に別れ寓所に帰る。松倉，町田健次郎，太田外世雄の信，並に広東小林捷太の電報に接す。根津同文書院長の案内状至。午後波多，井手友来訪。小林捷太の信至。風邪の気味あり。
- 二月十二日 快晴。午後六時根津同文書院長の招宴に東亜酒楼に赴く。副院長石川一を紹介する為なり。卒業生，並に書院関係者百二十人来会。九時散ず。菅村夫人，内田友義の信に接す。大谷来訪。
- 二月十三日 晴。午後綾野，梅田嵯峨艦長，余洵来訪。七時波多に至り晩食，九時半帰。南京岡寄文夫の信至る。之に復す。
- 二月十四日 晴。午前郡島，八木を豊陽館に訪ふ。晌午帰。吉見正任，佐藤少佐，梅野秀明来訪。午後西本来る。共に出て大谷光瑞伯を蘇州河の舟次に訪ひ茗談，三時吉田中将を千歳に訪ひ，五時帰。晚根津の帰国を送らんとし發熱の為に果さず。

二月十五日 半晴。午前土井、石寄、郡島、大谷来訪。河口介男、河口由次の信至る。之に復す。河口由の退学願書を同文書院眞島に郵送す。夜佐原宅の晩食に赴く。島田、大谷、波多、太田、村田、小山等同坐たり。十時散。

二月十六日 陰。平岡来訪。報告を作る。菅村の信至る。宮永龍見に托し鮎うるかを送りしを報ず。礼状を菅村に発す。宮永来訪。京都黒田源次より其兄有馬少佐の著書を送り来る。黒田に復書す。横山六輔、余洵来訪。

二月十七日 快晴。海軍に報告を發す。村田孜郎来訪。夜余洵、佐々布来訪。

二月十八日 晴。理髮。十一日来の風邪未痊有微熱。河口由次に同文書退学許可証を郵送す。

二月十九日 陰。午前高洲太助、林出、大谷来訪。午後遠藤保雄来別、今夕静岡丸にて帰国すと云ふ。

二月廿日 快晴。日曜日。午前吉田司令官来訪、中食を共にす。午後島田数雄来訪。内人の信至。余洵来訪。

二月廿一日 健晴。梅田嵯峨艦長に致書す。午後櫻木、波多、副島前後来訪。

二月廿二日 快晴。午前高洲太助来訪。午後佐原宅に櫻木と会す。宮寄虎之助に説き帰国を促す。篠寄医院に至り受診。検尿の結果腎臓の故障たるを知る。余洵来訪。

二月廿三日 晴。午後篠寄に抵り受診。去て安原美佐雄、山崎領事、林出、高洲を訪ふ。佐々克堂翁の墓道改修の寄附金拾円を守田愿に郵送す。八田厚志、三澤信一の信至る。広東沙面猪瀬乙彦の信、並に丈夫の簡に接す。八田、猪瀬、小林捷太に復書し、別に内人、並に丈夫に致書す。夜佐々布来訪。

二月廿四日 晴。北京辻武雄に致書す。篠寄に抵り受診。

二月廿五日 晴。午後篠寄に至り受診。櫻木来訪。北岡少佐東京よりの信至。波多来訪。

二月廿六日 快晴。午後波多を訪ひ、去て篠寄医院に至る。宮永、有働政喜、平岡小太郎来訪。亀雄の信至、之に復す。

二月廿七日 晴。日曜日。正午林出の中食に赴く。篠寄夫婦、波多夫婦、島田、西本同坐たり。三時散。暖如晩春。

二月廿八日 健晴。森岡正平、有菌善行の信至る。午後井手友喜、光永星郎、児玉璋一來訪。海軍に通信を發す。光永を万歳館に訪ふ、不在。秋田康世に抵り受診。

三月一日 陰。朝吉田中將、遠藤大佐に致書。明日軍艦千歳出口するを以て也。佐原の病を問て帰る。古城貞吉に致書。六時光永星郎の招宴に倶楽部に出席、九時散。雨。

三月二日 雪。菅村三之に致書。篠寄医院に至り、四時帰。井手友来訪。

三月三日 晴。午前宮寄虎之助、開田泰民来訪。正午上海日報社の光永星郎の招待会に杏花楼に列し、二時散ず。鳥居素川、小山内大六の信、並に小池張造の訃報に接す。鳥居に復し、小池忠一に弔詞を發す。

三月四日 晴。午後東方社より万歳館に至り光永星郎に名刺を留め、篠寄医院に至り薬を取て帰る。晩刻波多、中村来訪。六時倶楽部に至り通信社員一同と会食、中村の広東支社に赴くを餞す。

三月五日 晴。午後上海日報、佐原、篠寄に抵る。夜佐々布を訪ひ、十時帰。

三月六日 晴。菅村三之に致書す。海軍に致書す。午後竹内勝太来訪。守田愿、西本、大島新、並に内人の信至る。内人に復す。島田来訪。篠寄医院に至る。夜余洵来訪。大谷是空を訪ふ。佐原よりアスパラガス一缶を贈り来る。

三月七日 晴。大島新、菅村に信片を發す。鄭垂来訪。宮寄滔天より名刺を送り来る、本日広東に赴くと云ふ。午後篠寄に至り守田市郎の病を問ふ。田鍋安之助に致書す。辻武雄に復す。

三月八日 晴。波多、山寄、林出を訪ふ。橘三郎、高尾亨に致書す。午後篠寄医院に至る。山成来訪。米内山庸夫より支那職員録を送り来る。之に致書す。

三月九日 晴。井手、中西、川畑豊治、山内俊貞、並に内人の信至る。王統、余洵来訪。夜横山を訪

ふ。井手と内人に復書す。

三月十日 半晴。理髮。午後篠崙，東方社，宮坂九郎を訪ふ。夜義勇隊の賞品授与式に列し十時帰。

三月十一日 雨。終日報告を作る。夜余洵来訪。

三月十二日 陰。報告を作る。午前国際通信社古野伊之助来訪。小林捷太の信至。午後三井より篠崙医院，通信社を訪ふ。晩余洵，波多来訪。村田孜郎の信至る。

三月十三日 晴。日曜日。古城，岡，菅村，並に丈夫の信至。晌午税関埠頭に篠崙夫婦の帰国を送る。報告を作て之を終る。

三月十四日 晴。佐々布，木村，波多来訪。菅村，丈夫に復書す。井手来訪。昨来腸患有り。古野伊之助来訪，漢口岡，南京多賀に紹介す。本夕南京，漢口に赴くを以てなり。西本来訪。

三月十五日 晴。西澤公雄を訪ふ。午前宮坂九郎来訪。北岡少佐母堂の訃に接す。田中少将の信至。

三月十六日 微雨。北岡少佐に弔詞を發す。西澤公雄来訪。午後篠崙医院より財津，井手友喜を訪ひ，四時帰。立石登来訪。夜余洵来訪。立石登来訪。

三月十七日 晴。児玉，西山来訪。上妻博路，菅村夫人の信至る。上妻に復書す。午後己松生，金子雪壘の紹介にて来訪。夜佐々布を訪ふ。

三月十八日 晴。立石登来訪。午後柴山中佐，司馬，菊池少佐来訪。平岡，波多亦来訪。海軍に報告を發す。外に吉田中将，名和大将，丈夫に報告副本を郵送す。校閲誤脱字少なからざるを以て訂正文を以上四処に送る。夜柴山中佐を筑後丸に送り，宮崎寅藏，萱野長知等を訪ひ帰る。白岩龍平，橘三郎に発信す。

三月十九日 晴。暖気頓に加ふ。菅村家より接骨木皮を小包にて送り来る。之に礼状を發す。午後山崙総領事を訪ひ其夫人の病を問ひ，去て鄭孝胥父子を南洋路に敲き，四時帰る。海軍に報告の訂正せし者を再送す。余洵来訪。

三月廿日 陰寒。日曜日。午後佐々布，山成，平岡，村田，島田を歴訪し，五時島田〔と〕出て雞絲炒麵を吃す。夜余洵，西山来訪。

三月廿一日 半晴。辻源太郎，岩本一吉，橘三郎の信至。辻に復書す。午後小山清次来訪。松倉に信片を發す。

三月廿二日 陰寒。午後大谷と領事官邸に至り夫人を弔す。昨夜死去せる者なり。二時篠崙医院に至り，帰途理髮，日報社，通信社，小山等を訪ふ。晡平岡，立石来訪。平岡を留め晩食す。長江虎臣，森格，磯谷廉介の信至。

三月廿三日 雨意。本国寺杉山仁雅来訪。夜石井則之，中島，波多来訪。波多に托し山崙領事の処に奠儀を送る。小山内大六，光永星郎の信，並に古川権九郎の訃至る。本月十七日東京大久保の寓所に歿せりと云ふ。四十年来の親友又復一人を少ぐ。痛む可きなり。夜半雷雨。小山内に復書す。

三月廿四日 雨。井手友，大谷来訪。佐藤少佐に抵り小談。午後一時より波多と山崙領事夫人の告別式に其官邸に列し，二時帰る。古川不二雄に弔詞を發し奠儀を送る。夜島田数雄来訪。

三月廿五日 陰。午後宮崎寅藏を勝田館に訪ひ暢談，帰途篠崙医院に至り，五時帰。

三月廿六日 陰。澤村幸夫，宮崎寅藏，神田茂，津田静枝の信，並に牛島貫吾翁の訃至。

三月廿七日 陰。津田中佐，神尾茂に復し，牛島吉郎に弔詞を送る。立石登の信至。

三月廿八日 陰。北岡少佐を訪ふ，本日帰来せる者なり。帰途篠崙医院，春申社に至り，正午帰る。安田鉄之助，池田桃川，児玉璋一，宮永祐雄来訪。安田は故人安田彌藏の長男にて陸軍大尉たり。岡幸七郎の信至る。之に復す。午後平岡，北岡，西本来訪。広東磯谷少佐に復書す。伊達源一郎に致書す。

三月廿九日 晴。安田鍬之助，児玉璋一来訪。安田は本日帰国する者也。武林起業会社社長小津清左衛門より案内状至る。之に復す。秋田康世来訪，小畑惟清より余の病気を憂慮し状況を照会し来れりとて小畑の書信を示す。秋田に托し小畑に返電し，同時に小畑に致書病の痊へしを報じ，別に内人に同様

の通知を發す。領事館より本月分津帖を送り来る。夜林出を訪ひ暢談、十時近江丸に支那新聞記者団九人、日本人兎玉、宮地、岡吉次郎等の東京に於ける東亜新聞記者大会に出席するを送り、十一時帰る。

三月三十日 半晴。午前篠寄医院より春申社に至り、正午帰。吉井、西山来訪。大阪毎日新聞社員芥川龍之介、村田孜郎来訪。橘三郎、藤村義朗、丈夫の信、並に不破瑳磨太父親の訃至。夜佐々布を訪ふ、不在。余洵来訪。兎玉より依托の金員を交附す。

三月三十一日 晴。丈夫に發信す。不破に弔詞を發す。波多来訪。吉田司令官の信至。夜波多を訪。

四月一日 雨。午前理髮、篠寄医院より領事館に至り山崎、林出を訪ひ、正午帰る。午後林出来訪。六時小津武林会社社長小津清左衛門の招宴に倶楽部に出席す。一行の法学博士仁保龜松、前島二郎に面晤す。來賓四十余人、九時散ず。余穀民、中畑栄来訪せりと云ふ。余は東亜新聞大会出席の為本夕東京に赴く者、中畑は本日北京より來着せりと云ふ。

四月二日 雨。午前中畑、平岡来訪。午後豊陽館に小津、仁保、前島、中畑を訪ひ、去て万歳館に芥川龍之介を訪ひ、通信社に小談、帰。白木豊中佐、古野伊之助、河口虎夫の信至る。虎夫は高等工業校の試業に合格を報じ来る。六時半中畑栄洗塵會に新月に列す。同坐は林出、波多、内山、河村、平岡、島田等なり。十時散ず。河口虎夫に復書す。

四月三日 晴。神武天皇祭。午後文学士岡崎丈夫来訪。六時半櫻木俊一招宴に倶楽部に出席す。仁保博士、林出、佐原同坐たり。九時散ず。古城貞吉、田辺豊雄の信至。

四月四日 晴。鄭垂来訪。午後波多来訪。海軍に報告を發す。風邪の気味有り。

四月五日 陰。午後篠寄医院に至り、転じて北岡少佐を訪ひ帰る。篠崎に信片を發す。平岡、大谷、佐々木武三郎来訪。橘三郎に發信。

四月六日 雨。終日静養。

四月七日 微雨。午後篠寄医院より豊陽館に至り古田司令官を訪ふ。昨日鎮江より入港せる者也。鈴木中佐義一、椎名少佐、柴田中佐、北岡少佐等と談じ、五時帰る。波多、佐々布来訪。

四月八日 晴。午後海軍中佐鈴木義一來訪、寛話時を移て去る。夜波多来訪。

四月九日 晴。理髮、篠寄医院より上海日報社に至り、正午帰。辻武雄の信至。午後三時豊陽館に至り北岡、林出、川村、友野等と會し、本日入港の軍艦富士を訪問し艦長山口大佐傳一、並に高橋大佐等を訪ひ、四時半辞歸。林出の処に小談帰る。松倉、鶴田甲奎、己松勇の信片に接す。古野伊之助、平岡小太郎来訪。松倉に復す。北京辻に返信を發す。

四月十日 雨。日曜日。同文書院短艇競賽の案内有り、行かず。午後三時馬車を賃し野平宅の觀桜會に赴く。春雨迷濛庭内の桜花夜來の風に虐せられ狼藉見るに勝へず。來客二百余人。五時帰る。田辺豊雄に復書す。

四月十一日 陰。富士艦長山口傳一大佐、同副官後藤輝道少佐来訪。午後篠寄医院より豊陽館に至り鈴木中佐を訪ふ、不在。海軍々令部田中少將の電報至り帰京の件に答復し来る。報告を作る。西本来訪。六時半富士、千歳乗組將校招待會に倶楽部に出席す。吉田司令官、山口、遠藤兩艦長以下主賓約二百余人。九時散ず。

四月十二日 晴。海軍に報告を發す。午後二時海軍富士のアットホームに出席す。内外の來賓二百余人。五時散ず。夜鈴木中佐義一來訪。明早軍艦宇治にて遡江すと云ふ。

四月十三日 快晴、暖氣頓に加ふ。午前領事館に至り川村、林出、山口と軍艦富士に至り山口艦長、高橋大佐に告別し、正午帰。晚北岡を訪ひ、去て佐々布に抵る。平岡在焉。十時帰。海軍より四、五、六の手当、電報為替にて送來。丈夫の信、並に横山六輔、小山内大六の信片至。

四月十四日 晴。午前台湾銀行に至り海軍よりの為替四、五、六月分手当千百円を受取て帰る。田中清司、遠藤保雄、吉見正任の信至る。之に復す。天津速水篤次郎に致書す。

- 四月十五日 晴，昨来黄霾满天。波多来訪。午後篠寄医院より西本を訪ひ帰る。夜先施会社に稲香村に至り臘腸，腐乳，花生米を購ふ。内人に致書帰期を報ず。長崎土佐屋に信片を發す。
- 四月十六日 雨。東京宅に金六百円を郵送す。午前井手友喜来訪。午後上海日報に至り，去て上海銀行に銀千円を預け入る。軍令部副官南郷大佐に致書，金子領収の事を通知す。
- 四月十七日 晴。午後篠寄医院より友野盛を訪ひ，帰て永安公司に至り，四時帰。北京八角三郎，古野伊之助に發信す。丈夫，西村佐人，河口由次の信至。丈夫，神寄，篠崎，荒賀に信片を發す。
- 四月十八日 晴。前九時軍艦千歳に吉田司令官，並に艦長，幕僚に告別し中食の饗を受け，二時辞帰。辻源太郎より佃煮，桜花塩漬贈る，昨日帰来せりと云ふ。波多来訪，俱に杏花楼に上海日報の宴に赴く。余の帰国を餞するなり。島田，波多，西本，佐々布，西山，村田同坐たり。九時散ず。
- 四月十九日 晴。午後篠寄医院より豊陽館に至り吉田司令官，北岡少佐と暢談。去て領事館に川村，内山，田村，林出を訪ひ告別し，上海日報に小談。ブルトウエイにて提鞆一個を購ひ，佐原宅に茗談，去て東方通信社に至り，五時帰る。夜波多来訪。
- 四月廿日 晴。午後平岡，余洵来訪。余は本日東京の東亜新聞記者大会より帰来せる者也。南郷軍令部副官，佐々國雄，安田鍬之助，日下亥太郎の信至る。日下郵便局長より通信事業創始五十年紀念葉書並に切手を贈り来る。南郷副官に領収書を發し，日下に礼状を致す。佐々國雄に結婚の祝詞を發す。安田鍬之助に復す。夜林出来談。更に及て去る。
- 四月廿一日 晴。河口虎夫に高工入学の祝儀として金拾円を送る。午前八田厚志の信至る。之に復す。波多来訪。午後篠崎医院に至りて薬価を支払ひ，上海日報，日本人倶楽部を訪ひ帰る。北岡少佐より紅白絹を贈り来る。六時半波多宅の晩餐に赴く。島田，井手，西本，村田，林出，芥川，太田同坐たり。十一時散ず。
- 四月廿二日 快晴。海軍に通信を發す。不破孝太郎，辻源太郎，波多夫人来訪。午後理髮。平岡，余洵，佐原来訪。夜佐々布来訪。
- 四月廿三日 朝微雨，少時晴。友野来訪。午後井手友，島田，西本，大谷，佐藤中佐，北岡少佐来訪。五時寓所を辞し税関埠頭に至り五時半のランチに乗ず。不破孝太郎，余洵，木村，波多，佐々布，橋，池田，菊池，石田，村田，西山，井手，辻等来送。余洵より祁門紅茶，翡翠，花瓶を贈る。六時滙山碼頭の鹿島丸に乗ず。船長五野来訪，同県人たり。
- 四月廿四日 微雨。前八時開船。春雨迷濛，兩岸弥望翠色如染。夜半風浪頗烈。
- 四月廿五日 晴。風浪尚烈。
- 四月廿六日 陰。長崎滞在，水上署警部某，並に福岡日々記者佐伯勇来訪。
- 四月廿七日 陰。午前の急行車に乗ず。六時門司着，馬関七時十分の特急車に乗ず。
- 四月廿八日 雨。車窓展望菜黄麦綠春色可掬。沿道処々残桜の林間に装点するを見る。晚八時二十五分東京着，龜雄，丈夫，清子，孫雄一郎を伴ひ来迎。西田亨次郎亦来り迎ふ。自働〔動〕車にて帰寓。河口介男の信至。
- 四月廿九日 晴。終日静養。龜雄，並に内田友義来訪。
- 四月三十日 晴。午前海軍省に出頭。招魂祭休日にて出勤者無し。外務省に内田，芳澤，伊集院，高尾列に名刺を留め，去て日吉町東方通信社に伊達，不破，野村，大枝等と会し，午後帰る。
- 五月一日 晴。日曜日。終日在家。上海波多博に致書。
- 五月二日 陰。午前軍令部に山下大将，安保中將，南郷大佐，田中少將，井手〔出〕大佐，高橋，藤吉，塩島各參謀に面晤し，去て外務省に伊集院大使，速水，米内山を訪ひ，同文会に田鍋を訪ひ暢談。中食後再び高尾亭を敲き，帰途西田敬止を訪ふ。
- 五月三日 晴。午前内人と三田に至り孫雄一郎の為に五月人形，其他裝飾品一切を購ひ，理髮して帰る。正午荒賀直順来訪。六時東方通信社の招宴に赤坂田町の永楽に赴く。同坐は山崎上海領事，廣

田、高尾、伊達、大枝、不破、米内山、以下三、四人。十時散ず。田鍋安之助来訪せりと云ふ。

五月四日 晴。伊達源一郎に発信す。午後白岩に信片を發す。四時より内人並に亀井未亡人と靖国神社境内の能楽堂に至り觀能。喜多六平太の景清、觀世元滋の花筐の二番を演ず。九時帰。

五月五日 晴。午後海軍に藤吉中佐を訪ひ、去て東方社に伊達等を訪ひ、四時帰。孫雄一郎の為に端午節の祝宴を催す。

五月六日 雨。終日在家。

五月七日 雨。上海林出賢二郎に致書す。終日在家。鳥居の信片至る。之に復す。

五月八日 陰。終日在家。

五月九日 晴。午後銀行、郵便局に至り、四時内人と鳥居坂地方に散歩す。夜八木直介、藤吉中佐の紹介にて来訪。

五月十日 陰。八木直介に致書、其支那行に付き安原美佐雄、岡幸七郎に紹介状を与ふ。北岡中佐、古賀末藏、井手、島田、不破孝太郎、村田孜郎、佐々布質直等に致書す。

五月十一日 雨。宮川守善来訪。小西伊十の信至る。之に復す。外に尾越、守田、小畑、古城、松倉に帰京を報ず。亀井、宮島に信片を發す。

五月十二日 陰。午後三井物産会社に藤瀬、小田柿、林、山本、神寄等を訪ふ。皆不在。去て小石川に細川侯に伺候し蓑田と小談。去て古城を訪ふ、不在。佐々國雄に抵り小談。守田愿を訪ふ、不在。東方通信社に伊達、不破を訪ひ、五時帰る。微雨。尾越、上妻の信片至る。

五月十三日 陰。午前白岩来訪。午後内人と芝公園に散歩す。守田愿来訪せりと云ふ。

五月十四日 雨。守田、古城に信片を發す。午後田鍋安之助来訪。内人と渋谷に至り亀雄を訪ふ、不在。帰途高島義恭氏を訪ひ小談、帰る。

五月十五日 晴。日曜日。午前市原源二郎来訪、之を留て中食す。午後山内清来訪。古賀の信片至。

五月十六日 晴。午後藤瀬宅、名和大将、河野宅を歴訪し、篠崎都香佐を三光町に訪ひ、五時帰る。夜内田友義来訪。松倉の信片至。

五月十七日 晴。午前古城貞吉来訪。午後吉田中将宅、山岡少将、白岩、尾越等を歴訪し、五時帰る。

五月十八日 陰。上海林出、波多、古賀の信至る。波多より四月分手当を送り来る。波多に復書す。

五月十九日 晴。小西伊十の電報に接す。午後五時肥後倶楽部の大会に築地精養軒に出席す。細川侯、細川立興子爵、清浦子以下、会者百五十余人。九時散ず。

五月廿日 晴。終日在家。五時雷雨。

五月廿一日 晴。午前軍令部に田中少将、南郷副官、井出大佐に面し、外務省に高尾、小幡を訪ひ、去て同文会に田鍋を訪ふ、不在。正午帰る。井手友喜の信至る。林出賢次郎の信至。

五月廿二日 晴。午前脇坂、神寄来訪。中食後内人と喜多舞台に至り觀能、五時終る。途中にて晩餐して帰る。河野夫婦来訪せりと云ふ。夜更雨。

五月廿三日 陰。林出に致書す。外大島、守田、土屋、並に熊本河口、菅村、田中に信片を發し帰京を報ず。午後東京駅に至り乗車券其他を購入し、去て東方通信社を訪ひ伊達、不破と談じ、五時帰る。新橋にて浮田郷次に邂逅す。篠寄来訪せりと云ふ。夜雨。

五月廿四日 雨。午前銀行より預金を受取る。熊本河口介男に致書す。大島新の信至。

五月廿五日 半晴。理髮。

五月廿六日 陰。午前大島新来訪。岡次郎の信至る。之に復す。午後高森義人来訪。平川清風に致書。明朝より内人と共に熊本に帰らんとす。行装を治す。

五月二十七日 雨。前七時半内人と与に上車家門を出で東京駅に至り、八時半の特急車に乗り西下、丈夫来送。

五月廿八日 晴。九時半下関着、直に門司に渡り十時五十分の車に乗す。午後三時三十分上熊本着。河

- 口父子，田中，菅村，上妻博路来迎，菅村家に投ず。是日大牟田を過ぐる時小澄正妻子を伴ひ来迎。晩阿部野，田中，河口来訪。
- 五月廿九日 晴。日曜日。午前古閑信夫夫婦，河口と共に来訪。午後緒方二三，阿部野，佐々布，永原等来訪。夜河口宅を訪ひ入浴，十一時帰る。
- 五月三十日 晴。佐々布氏より鮮魚一台を贈り来る。午前田邊母堂の来訪有り，中食を共にして寛談。阿部野来訪。夜田中宅を訪ひ，十時帰る。
- 五月三十一日 陰。午前藤崎宮に参拝し，永原，佐々布，山田を歴訪し，鎮西館，九州日々社に平山，深水，河田，板井，稲田等に面晤し，去て不破，米原，上妻，政木，井芹，井場を訪ひ，午を過て帰る。山田珠一，牧野喜久太，井場諸氏来訪せりと云ふ。午後長江虎臣を海外協会に訪ひ，四時帰る。晚上妻博之来訪。河口宅に至り入浴，十一時帰る。雨。
- 六月一日 晴。山川早水来訪。九州日々新聞社員藤木敬信来り支那政況を問ふ。井芹経平，上妻博路来訪。夜田中清司を訪ふ。米原繁三来訪。東京留守宅に致書。
- 六月二日 晴。午前長江虎臣，松倉善家を訪ひ，正午帰る。午後阿部野来訪。河口宅に至り晩飯入浴して帰る。
- 六月三日 晴。午後三時内人と牧崎田辺家に至り家族一同に初対面を為し晩飯の饗を受く。高木敏夫来会。七時辞帰。米原夫婦来訪。
- 六月四日 陰。牧野喜久太来訪。三浦喜傳来訪。中食後内人と上熊本駅より上車宇土に至り城山，法華寺の先塋を展し，三時の汽車にて帰る。晩河口に至り入浴。
- 六月五日 雨。井芹経平母堂の死を聞き阿部野と行て弔問す。
- 六月六日 陰。是日大熊本期成会の祝賀会有り，全市熱鬧湧くが如し。四時井芹家の葬儀に列す。夜河口に至り入浴。
- 六月七日 半晴。午前練兵場に至り米国人の飛行術を観る。午後田中清司を訪ひ晩飯の饗を受けて帰る。
- 六月八日 晴。午後内人と大江に墓参す。夜阿部野来談。田辺寛忠来訪。
- 六月九日 雨。園田勤吾来訪。井手友喜，島田数雄，伊達源一郎，波多博，田中少将，井出三郎に致書す。午後菅村家より内坪井田中宅に移寓す。
- 六月十日 雨。午前井手三郎来訪。四時より親戚全部を会し先考二十五周年法要を営む。九時散ず。午前柘植氏を訪ふ。
- 六月十一日 雨。午前の汽車にて阿部野，緒方，長江，深水，菅村と川尻に至り下車，間道より岩村旗亭に赴く。道路泥濘歩行頗る艱む。午時鰻，鯉，鮒等を料理，中食し，四時の汽車にて帰る。不破昌材来訪せりと云ふ。夜菅村，田畑来訪。丈夫の信至。上妻博路の信至。
- 六月十二日 雨。柘植勝馬翁来訪。四時より田辺，河口，田中，菅村の諸親族十四人を新坂上八景園に招饗す。六時散。
- 六月十三日 微雨，後晴。前九時廿分水前寺発の汽車にて大津に至り古閑信夫を訪ふ。河口介男同行たり。中食の饗を受け三時の汽車にて帰る。山田珠一来訪せりと云ふ。
- 六月十四日 雨。菅村来訪。午後五時より河口宅の招邀に赴く。降雨甚烈しく衣袂尽く沾ふ。九時半帰。海軍々令部次長より二十日請待の電報至る。之に返電す。
- 六月十五日 雨。午前理髮，井場熊喜氏来訪，井出大佐，波多，丈夫に発信す。午後牧寄母堂来訪。五時菅村宅に赴き晩飯して帰る。
- 六月十六日 雨。柘植翁来訪。夜菅村，阿部野を訪ふ。米原来訪せりと云ふ。
- 六月十七日 雨。三浦喜傳に致書す。松倉に致書す。軍令部井出大佐の電に接す。直に之に復電す。晩不破昌材来訪。八時菅村，阿部野，米原，山田，河口を歴訪す。本日より九鉄線路矢部川地方洪水の為不通と為り暫く開通の望無きを聞き，軍令部井出大佐に發電して来る二十日軍令部次長の招宴に列

する能はざることを報ず。

六月十八日 雨。是日帰京の予定なりしも汽車不通の為め中止し、東方通信社伊達源一郎に通電し来る廿日の支社長会議に列する能はざることを告ぐ。東京留守宅に致电帰京延期を報ず。不破、河口、菅村前後来訪。井出大佐の電に接す。

六月十九日 雨。汽車尚不通。午前友野母堂来訪。午後園田、長江、緒方を訪ひ、去て三浦喜傳を高麗門に、松倉を春日に訪ひ、六時帰る。永原来訪せりと云ふ。夜河口宅を訪ふ。波多東京よりの電に接す。井手友喜の信至。

六月廿日 雨。佐々布遠来訪。夜米原夫婦来訪。

六月廿一日 陰。是日熊本を辞し東京に帰らんとす。朝来行李を收拾す。東京宅、波多、井出大佐に打電帰期を報ず。中食後田中宅を辞し上熊本駅に至り一時二十四分の汽車に乗ず。佐々布遠、不破昌材夫妻、田辺、高木両母堂、河口、菅村、田中夫婦、並に虎夫、逸夫、家久正夫等来送。前日の水害地矢部川、羽犬塚の間を過ぐ。橋断家壊田園荒廢、光景極慘。六時門司に達す、馬関に度り七時十分の特急に乗ず。白須直、榎元禄次郎に邂逅す。

六月廿二日 陰。夜八時半東京着、波多夫妻、西田亭次郎、丈夫、清子、雄一郎等来迎。自働車にて北新門前町の寓に帰る。

六月廿三日 晴。波多来訪。五時東方通信社に至り支那各地より来会せる支社長岡、波多、横山、佐藤、藤澤、八田、並に本社諸人と会し、六時鳥森湖月の宴に赴く。伊集院大使、田中、廣田、高尾、以下外務省情報部の官吏、並に通信社員来会。九時半散ず。平岡小太郎青島よりの信に接す。山成和四夫来訪せりと云ふ。

六月廿四日 晴。九時海軍々令部に田中少将、井出大佐を訪ひ小談。去て東方通信社の支社長会議に列し、四時帰る。夜雨。

六月廿五日 雨。午前八田厚志、岡幸七郎来訪。午後田鍋安之助来訪。六時伊集院大使の招宴に溜池三河屋に赴く。会する者三十余人。九時半散ず。

六月廿六日 陰。晌午同文会に赴き田鍋、岡に会し、正午岡と鍋島直大侯の告別式に其邸に参し、同文会に帰り田鍋と三人牛込抜け弁天の集月に赴き鰻飯を吃し寛談三時に及で帰る。上海林出に復書す。

六月廿七日 雨。熊本佐々布遠、不破昌材、河口、田中、菅村、田辺、高木、柘植、古閑、小澄諸家に礼状を發す。上海井手、島田に復書す。阿部野に信片を發す。北京辻武雄に致書、山川早水の事を云云す。尾越辰雄、平岡小太郎に復書す。夜東京駅に至り八田厚志を送る、不来。

六月廿八日 微雨。午前軍令部に安保中将、田中少将以下を訪ひ、去て外務省に高尾、伊集院を訪ひ、帰途波多に抵り正午帰宅。

六月二十九日 雨。

六月三十日 雨。

七月一日 強風。午前波多夫婦、岡幸七郎来訪。岡を留て中食す。午後中島海軍大佐来訪。四時より白岩、亀井、田鍋、井上雅二列の案内に神田今川小路維新号に赴く。支那料理の饗有り。同坐は木村丑徳、大竹貫一、大島新、荒賀直順、内田良平、中野二郎、河野久太郎、花田忠之助、森茂、水野、高月、牧田、速水、鈴木、岡野、高月、波多、新橋、小村俊、柏原文、五百木良三、関、大久保、森清衛門、葛生等三十余人。八時半散ず。白岩、河野と同車日比谷公園の松本楼に至り小憩して帰る。

七月二日 晴。尾越の信至る。之に復す。河口介男、阿部野利恭の信至る。広東藤田総領事に致書す。六時白岩、河野の招に赤坂春梅に赴き会食。席上橘、香月、大谷に致書。九時帰。八田に信片を發す。

七月三日 陰。一日以来豊席全部を換新す。夜九時東京駅に佃信夫の支那行を送る。午前内田友義来訪。

七月四日 半晴。古閑、田畑の信至る。

七月五日 晴、熱。是日雄一郎誕生日たり。晩家族樂坐小宴を催す。尾越辰雄来訪。

- 七月六日 半晴。午前額田博士に抵り受診。血圧二百十。病勢昨年と大差無し。
- 七月七日 陰。午前横田安止、波多博来訪。白岩龍平に致書す。午後四国町郵便局に至る。古城貞吉、佃信夫の信片至る。古城に復す。小畑惟清の信至る。
- 七月八日 朝小雨、霎時にして休む。午前百瀬医院に赴き内人と共に血精治療を受く。正午日比谷松本楼に中食して帰る。涼気肌に透る。岡幸七郎の信片至る。夜波多来訪。
- 七月九日 微雨。午前内人と百瀬医院に至り血精注射を為す。
- 七月十日 朝微雨、午後晴。午前百瀬医院に至る。午後波多来訪。横田安止に致書す。小西伊十の信至。
- 七月十一日 晴。朝横田安止、木村丑徳両氏来訪。横田浜茶二箱を、木村鶉卵一箱を贈る。午前理髮。午後五時より品川に赴き京浜電車に換坐鮫洲川崎屋の宇土会に出席す。細川子爵、尾越、小畑、伊藤、安富、浅井、森、富田、成松、竹内、近藤十余人来会。九時半散ず。
- 七月十二日 晴。午前軍令部に田中少将、藤吉中佐と談じ、正午帰る。五時廿分中島大佐晋の北京行を車站に送る。夜内人と西田家を訪ふ。
- 七月十三日 半晴。午前上妻博路、波多夫婦、並に細川侯、支那派遣生徳永新太郎、貞清玄亀、入江義一、園田理一來訪。支那各地知人への紹介状を与ふ。夜七時波多夫妻の上海行を東京駅に送る。
- 七月十四日 陰。松倉、井手に信片を發す。
- 七月十五日 晴。午前額田博士に至り受診。血圧二百十五。
- 七月十六日 晴。
- 七月十七日 晴。
- 七月十八日 晴。
- 七月十九日 晴。白岩来訪。松倉の信片至る。
- 七月廿日 晴。上海余洵の信至る。上妻博路の信片至。
- 七月廿一日 晴。荒賀直順に信片を發す。
- 七月廿二日 微雨。亀雄房州より干魚を送り来る。海軍田中少将に致書す。午後成田鍊之助来訪。
- 七月廿三日 雨。塩島海軍少佐来訪。成田の信片至る。亀雄に信片を發す。五時より内人と飯田町喜多舞台に到り観能、喜多六平太の安宅、栗谷の石橋の二番有り。十時終。
- 七月廿四日 雨。午前百瀬医院に至り、正午帰る。友野盛の信片至る。之に復す。上海米里絞吉に其夫人を晤す。
- 七月廿五日 雨。午前百瀬医院に至り正午帰。大島新、井手三郎の信至。
- 七月廿六日 小雨。大島に復書す。午前百瀬医院に至る。午後田中海軍少将、横田定雄、山成和四夫前後来訪。
- 七月廿七日 半晴。井手友喜、中島晋の信至る。
- 七月廿八日 晴。山川早水来訪。不破、荒賀の信片至る。
- 七月廿九日 陰。加藤壯太郎来訪。不破、田鍋に信片を發す。海軍々令部浅田書記来訪、七、八、九月分手当金を送り来る。午後藤吉中佐来訪。夕刻理髮。米内山庸夫に致書す。
- 七月三十日 微雨。午後山成来訪。
- 七月三十一日 半晴。上妻博路、田中清司の信至る。之に復す。
- 八月一日 陰。上海波多の電報至る。戸田義勇に致書す。田中忠二郎に前田彪の建碑寄附金拾円を送る。白岩龍平、橘三郎より案内状至る。
- 八月二日 陰。上海波多、古賀末蔵に帰期を報ず。午前第一遣外艦隊司令官吉田中将来訪。
- 八月三日 雨。朝荒賀直順来訪。六時白岩、橘の招宴に木挽町丸の金田中に赴く。同坐は立花政樹、児玉謙次郎、竹内金平、佐原篤介、河野久太郎、成田鍊之助、神寄正助、小川節、飯田某、土佐孝等なり。十時散ず。

八月四日 晴。午前白岩，吉田中将，橘，亀雄を歴訪。亀雄宅にて中食して帰る。

八月五日 晴。成田の信至る。午後戸田義勇来訪。

八月六日 陰。小西伊十の電報至る。之に復す。林出賢次郎の信片至る。返信を發す。午後田鍋来訪。

八月七日 晴。五日以来炎熱漸く烈。前九時成田と約し岩寄宰翁を筈町に訪ふ。伊集院俊亦来会。中食の饗を受け二時半帰る。三時より内人と五反田に内田友義を訪ひ，五時帰る。林出賢次郎来訪，一昨入京せりと云ふ。

八月八日 晴，熱甚。午前海軍省に田中少将，井出大佐を訪ひ，去て外務省に高尾亨を訪ひ，正午帰る。同文会の案内状至る。之に復す。戸田義勇に草履代価拾円五十銭を郵送す。

八月九日 晴。朝岩崎宰翁来訪，島津公爵家の家令也。夜名和大将，田中少将来訪。

八月十日 晴，熱甚。午前赤坂新町の馬場医院に至り受診。帰途根津，田鍋を同文会に訪ひ，正午帰る。八角大佐三郎来訪。加藤大佐他出中来訪せりと云ふ。名和大将の案内状至る。之に復す。同文会明日の宴を辞し名和の約に赴かんとす。上海波多，東和，並に林出に致書，三十日東京發に延期せしを報ず。是日先妣の五十回忌辰により靈前に供物礼拝す。香月梅外，上村智覺の信至。

八月十一日 晴。理髮。午前林出来訪，伊集院大佐よりの見舞一封を贈る。午後山成来訪。尾崎行昌より其兄〔行雄〕の著作数種を送り来る。尾崎に致書す。五時半より築地水交社に於ける名和海軍大将の招宴に赴く。同坐は土屋中将，田中少将，八角，井出，加藤三大佐，加藤寛治中将，山岡少将，佐原，眞田鶴松，外一名也。宴散後涼を庭園に納涼し時事を暢談し，十一時散ず。

八月十二日 晴。海軍に報告を送る。朝木村丑徳翁来訪，鶉卵一箱を贈らる。上海北岡少佐，島田，坂田の信至。米内山の信に接す。

八月十三日 晴。尾崎行昌来訪。北岡，島田，坂田に復書す。

八月十四日 晴。午前名和大将，河野久太郎を訪ふ。河野の処に中食，三時帰る。小西伊十の信至。

八月十五日 晴雨不定。午前軍令部に田中少将，井出次官に面し，帰途外務省に林出を訪ふ。朝岩崎宰，午後宮川守善来訪。夜飯倉神谷町八幡宮の祭事を観る。

八月十六日 驟雨。荒賀，大島新，小西伊十に致書す。

八月十七日 晴。午後筈町岩寄宰氏の招に赴く。晩食の饗有り。同坐は寺田峯南，椎原，小熊，西郷午次郎の三人なり。椎原は国幹翁の第四子，西郷は南洲翁の第三子なり。寛談九時に及て辞帰。波多，岡の信至る。波多より七月分手当を送り来る。

八月十八日 半晴。終日在家。

八月十九日 雨。午前阿部野利恭来訪，留めて中食す。午後其の帰るを送て増上寺前に至る。岡，波多に復書す。大島新の信至る。

八月廿日 晴。神氣不舒。午前加藤壮太郎を移民協会に訪ふ，不在。夜発熱。

八月廿一日 陰。熱度三十九，心気ただ佳ならず，臼井医士来診。横田安止来訪。小西伊十，山口武洪，西次雄連名の信片至。夜雷雨。

八月廿二日 陰。午前宮川守善，荒賀直順来訪。昨夜来病勢全く退き元氣旧に復す。

八月廿三日 半晴。鳥居の信至る。之に復し，別に土屋員安に発信す。

八月廿四日 晴。午後平川清風来訪。晚八角大佐を訪ふ。転居して住址明かならず。上海波多，東和に帰期を報ず。

八月廿五日 晴。八角大佐に致書す。

八月廿六日 午後大雨。

八月廿七日 大風驟雨。午前軍令部に至り田中少将，山下大将，安保中将，井出海軍次官，加藤中将，八角，井出両大佐，藤吉，塩島中少佐を訪ひ告別。外務省に伊集院大使，廣田，高尾，林出，米内山に告別し，去て同文会に田鍋を訪ふ，不在，正午帰。田鍋，加藤，亀雄に致書す。午後林出，米内山

来訪。菅村三之の信至。

八月廿八日 陰冷。日曜日。宝妻寿作の信至。長江，緒方，阿部野に致書し，菅村に返信す。午前東京駅に至り乗車券寝台券を購入し，去て東方通信社に名刺を留め，虎ノ門に西田家を訪ひ，転じて赤坂に至り尾越辰雄，成田鍊之助を訪ふ，不在。午を過て帰る。河野久太郎，橋三郎来訪せりと云ふ。午後行装を治す。夜内田友義来訪。

八月廿九日 雨，秋冷頓に加ふ。松倉，土佐屋に信片を發す。午前額田医院に至り受診。加藤壮太郎，山成和四夫来訪せりと云ふ。午後東洋汽船会〔社〕に赴き長崎，上海間の船票を購ひ，帰途白岩を東亜興業会社に訪ふ，不在，二時半帰る。水野梅暁，大枝，不破磋磨太来訪。土屋員安の信至る。夜西田敬止来訪。

八月三十日 微雨。前八時半家門を辞し上車東京駅に至る。九時半の特急に乗ず。伊達源一郎，野村潔巳，米内山庸夫，不破磋磨太，大枝，山成，西田享二郎，亀雄，丈夫来送。夜大坂を過ぐ。大西齋来迎，一ノ宮房次郎此より同車。

八月三十一日 晴。前九時半下関着，門司に渡り十時五十分の急行に乗ず。博多に到り一ノ宮と相別る。鳥栖駅にて旧交高山公通来乗。昔年漢口別後不相見十八年，互に久闊を叙し武雄に至て握別す。高山は現に久留米に師団長たり。午後五時十五分長崎着，土佐屋に投宿す。松倉，佐々布，伊集院に信片を發す。

九月一日 晴。午前赤星知事を県庁に訪ふ，上京未回と云ふ。小西伊十に電信を發す。東京宅，並に熊本河口，田中，菅村，田辺及木村丑徳，名和大将に発信す。小西に信片を發す。

九月二日 晴。井出大佐に信片を發す。夜小西伊十大村より来訪，青年会の為に書を需む。二紙を書して之に与ふ。十二時に及で去る。

九月三日 雨。是日皇太子殿下欧州より御帰京あらせらる。午後二時土佐屋を出て二時半のランチにて東洋汽船会社のコレヤ丸に乗りA十号室に入る。五時開船，海上平穩。夜入浴。

九月四日 快晴。海平にして湖上を行くが如し。晚飧時食卓にて萱野長知と晤す。晩入浴。

九月五日 晴。午前一時呉淞口外に達す。五時起床，結束す。七時東和洋行より前田来迎。朝食後八時半のランチにて上海に向ふ。十時半税関埠頭に着す。波多，石田来迎。馬車にて東和洋行に入る。波多，井手友喜，島田，西本，西山，萱野，佐藤中佐等前後來訪。齋藤恒，本庄繁両大佐，神尾，平川，鳥居，田鍋，林出，緒方，高野，有菌，賀来，平岡，岩崎栄蔵，武藤虎太，田辺豊雄，平田久，岡崎文雄，梅田三良，雲南省長周鍾嶽，宇治田，宮川，有野，名和，内藤熊喜，根津，松元，山川，高山，池部，田尻，牛島，岡等の信に接す。

九月六日 半晴。東京宅に信片を發す。午前辻，北岡，山崎，川村，栗野，田中，湯谷，内山，上海日報，東方社，秋田，村田，波多を歴訪す。上海銀行より預金五十円を受取る。村田孜郎より印度土産黒檀にて造れる象を贈る。呉森山中将より菓子を送り来る。佐藤，萱野，井手三郎を訪ふ。井手は本朝来着せる者なり。森山中将，齋藤大佐，鳥居，白岩，本庄，岩崎，高野，武藤，田辺豊雄，平田久，賀来，梅田，平岡，緒方等に復書す。友野来訪。天野明石艦長，白木副長，吉田中将に漢口に致書す。池田安蔵来訪。夜佐藤中佐，島田太堂来訪。

九月七日 陰。午前綾野，井手三郎，北岡少佐来訪。午後太田宇之助，薛徳樹来訪。廣岡理則の信至。夜波多来訪。

九月八日 晴。午前理髮，篠寄，秋田を訪ひ，正午川村官補の送別会に倶楽部に出席。散後通信社に至り小坐，帰る。余洵，入江来訪。

九月九日 晴。終日報告を作り，終て之を發送す。篠寄来訪。東京横田兄弟，白岩，米内山，西田，神寄，不破，水野，伊達，野村，大枝，亀雄に信片を發す。南郷副官，岩崎宰，守田市郎に致書す。

九月十日 豪雨。八時川村博を熊本丸に送り，北岡，入江，井手を訪て帰る。佐原篤介来訪，二日前帰

来せりと云ふ。守田愿，八田厚志，林出，大島新に致書す。

九月十一日 雨。日曜日。綾野を訪ふ。井手三郎来訪。松倉，橋本勇蔵，原二吉の信至る。夜半雨漏甚しく床を移して臥す。

九月十二日 雨。夜井手を訪ふ。

九月十三日 陰。海軍に報告を發す。森茂来訪，留て中食す。午後東方通信社，森茂，太田宇之助を訪ふ。有働政喜来訪。夜横山六輔来訪。

九月十四日 陰。大坂大西齋に信片を致す。午後西本，友野，井手，佐原，篠崙を訪ふ。雨。

九月十五日 風雨。午後井手友喜来訪，明朝の春日丸にて帰国すと云ふ。上海日報，濟生堂に至る。漢口吉田司令官の信至る。入江義一來訪。晚副島綱雄来訪。七時佐藤中佐の留別宴に俱樂部に出席す。同坐は北岡，佐原，西本，山崎，野平，中林賢吾等也。九時半散。

九月十六日 半晴。十時井手友喜を春日丸に送る。午後波多，村田，佐藤来訪。宮田信一に致書す。夜細谷利恵来訪。八時上海日報に島田を誘ひ月に歩して税関棧橋に至り，佐藤中佐三郎の帰国を送る。是日中秋，月色甚朗。

九月十七日 晴，残炎頗烈八十度を示す。午後上海日報に至り井手，島田と談じ，四時帰。余洵来訪。留守宅に發信す。

九月十八日 陰。午前波多を訪ひ，去て橋夫人の病を問ひ，帰途山□を訪ふ。内田友義熊本中学に就職の通知に接す。緒方二三，横田安止，鳥居赫雄，守田市郎，小西伊十の信，並に平川清音翁の訃に接す。夜井手，島田を訪ふ。小西伊十に返書す。

九月十九日 晴，秋冷頓に加ふ。井手，北岡来訪。午後通信社に至る。

九月廿日 晴。井手友喜に致書。海軍に報告を發し，北岡，東方社を訪ひ，帰途理髮，秋田，波多に抵り小談，歸る。萱野長知，郵船支店長恩田銅吉，山口啓三，迎英輔来訪。

九月廿一日 健晴。早起秋意可掬。漢口吉田司令官に致書す。辻源太郎，漢口駐屯軍副官大澤勝二来訪。午後郵船会社に恩田，山口を訪ひ，去て万歳館に大澤大尉，日報社に井手を訪ひ歸る。吉田中將，村山正隆の信至る。之に復す。南京深澤に致書。夜齒痛激甚。

九月廿二日 晴。迎英輔，木村新平来訪。午後橋夫人の病を問ふ。井手友喜の信片至る。夜余洵来訪。

九月廿三日 晴。海軍に報告を發す。午後島田を訪ひ小談。

九月廿四日 晴。守田愿，入江義一の信片至る。支那各派系統図を作る。午後通信社，日報社に至り，五時井手と緒方を税関埠頭に迎ふれども上陸せず。六時半田中壯太郎の招宴に俱樂部に出席す。余洵，吳蒼，西本，波多，村田，小山同坐たり。九時半散ず。

九月廿五日 晴天。日曜日。午前井手，緒方二三，西本等来訪。緒方は南洋行の途次なり。正午緒方を杏花楼に饒す。井手，島田，西本，弥富以下五，六の県人同坐たり。二時散ず。一同公園に至り小憩後，日報社に歸り小談。六時篠崙の晩餐に其寓に赴く。後藤朝太郎，山田岳陽，西本，波多同坐たり。九時帰る。是日より裕衣に更む。

九月廿六日 健晴，気温六十度。午前菊池来訪。上海日報社に緒方，井手，島田と会し，晌午同芳に至り吃茶小食。公園に至り盤桓，二時緒方を税関埠頭に送りて歸る。海軍に系統図を送る。

九月廿七日 快晴。海軍に發信す。南京深澤暹の信至。内田友義，平川清風，横田安止，守田市郎に復書す。郵船支店長恩田の案内状至る。木村丑徳に致書す。橋夫人死去の報至，六時より橋仁太郎宅に至り其夫人を唁し奠儀一封を供へ，十時半帰る。左眼異有り。

九月廿八日 健晴。午後二時馬車橋仁太郎宅に至り会葬，三時柩を送りて墓地に至り，四時半帰。夜波多を訪ふ。

九月廿九日 快晴。南京深澤暹より獵銃彈の購入を依頼し来る。白岩龍平，森岡正平，北岡春雄，伊集院俊，菅村夫人，同逸夫，大島新，西次雄，井手友喜の信至る。南京深澤に復書す。午後大村西中佐

次雄に復書す。

九月三十日 晴。午前領事館に山崎領事、田中副領事を訪ひ、去て日報社に井手、佐原と談じ、晌午帰る。波多来訪。午後佐原来談。七時恩田郵船支店長の招宴に倶楽部に赴き、十時帰る。眼疾頗激。立花政樹より其先考の遺稿を送り来る。

十月一日 晴。立花に致書す。橋仁太郎来訪。熊本佐々布質直に信片を發す。井手三郎来訪。晚山成和四夫来訪。小西伊十、丈夫の信至。

十月二日 晴。日曜日。午前大島の病を福民病院に問ひ主治医中野の意見を聴き、去て副島、山成を訪ふ、不在、正午帰。大島新に其長男の病状を報告す。午後五時故佐々木金次郎の三週忌法会に東本願寺に参列す。

十月三日 快晴。井出大佐に信片を發す。山成来訪。南京深澤に致書す。午後理髮、領事館に田中を訪ひ、深沢に送品の事を托す。井手と小談。通信社に波多に会し、三時帰る。夜綾野来訪。

十月四日 晴。午前三井に野平を訪ひ守田市郎を晤す。□月二日福岡病院に歿するを以て也。大谷光瑞氏を呉淞丸船上に訪ふ、不在、晌午帰る。石崎良二来訪。海軍に報告を發す。

十月五日 晴。新任陸軍駐在武官小林少佐角太郎、鈴木大尉と与に来訪。午後五時守田市郎の追弔会に本願寺に列す。晚小林少佐を訪ふ。風邪の気味有り、夜発熱。

十月六日 晴。山成来訪。昨来心気不舒、終日静養。波多来訪。佐藤中佐三郎の信至る。之に復す。木下警視来訪。五時半波多宅の晩餐に赴く。橋仁太郎を餞する也。九時帰。

十月七日 晴。藤吉中佐に信片を發す。横山六輔来訪。郵便局長中林賢吾、井手三郎前後来訪。六時横山六輔の招宴に禅悦齋に赴く。時事新報社板倉卓造、並に佐原、森、殷汝耕、高岩、波多、河野一郎等同坐たり。九時散ず。橋仁太郎の帰国を送て帰る。

十月八日 晴。午後同文書院根津院長を訪ふ、病臥晤せず。眞島の処に小談、四時帰る。中川芳三郎来訪せりと云ふ。岩崎宰、深澤暹、佐々布質直、内人、丈夫の信至る。

十月九日 晴。是日旧曆九月九日重陽節たり。十時より時報館の新築落成記念式に列し、帰途領事館に木下警視を訪ひ、去て中林郵便局長、波多を訪ひ小談。岡幸七郎の信至る。大野弘夫婦来訪。西西門に復書す。午後井手、島田を訪ふ。成田、白岩、深澤に信片を發す。

十月十日 晴。内人に復書す。海軍に発信す。午後日報社に井手を訪ひ、帰途篠寄と小談。東京宅の電至り本月七日第二孫子誕生を報ず。夜大野弘を訪ふ。

十月十一日 快晴。丈夫に復書、安産を祝す。日報社に小談、帰る。山田純三郎来訪。海軍々令部より十、十一、十二、三ヶ月分手当を送来、副官に領収証を發す。

十月十二日 晴。午後北岡少佐来訪、今朝旅行より帰来せりと云ふ。午後佐々布を訪ふ。本日帰来せる者也。武田寛治郎に抵り小談、帰る。松元勢蔵、有働政喜の信至。長江虎臣、加藤壮太郎に信片を發す。夜波多来訪。

十月十三日 晴。午前鉦鹿赫太郎、木下警視、井手三郎来訪。午後北岡、井手を訪ふ。松村利男来訪。内人と丈夫に致書す。夜山成来訪。

十月十四日 半晴。午前立花政樹、北代、金子来訪。上妻博路に致書玉蜀黍毛寄贈を謝す。午後井手に抵り与に出て立花、篠崎を訪ふ、不在。北岡に抵り暢談。去て大谷光瑞師を呉淞丸の舟次に訪ふ、在らず。之に途に遇ふ。田岡正樹に信片を發す。夜佐々布来訪。雨。

十月十五日 雨。立花政樹来訪。午後新極東社田久江南来訪。理髮、日報社に井手を訪ひ、四時帰。金子を隣室に訪ふ。

十月十六日 雨。日曜日。午前弓術倶楽部に至り、正午帰る。大島新の信片至る。

十月十七日 雨。報告を海軍に發送す。午後荒谷光次、西本省三来訪。入江義一の信片至る。

十月十八日 雨。山岡少将に致書。別に橋三郎に其母堂を晤し、尾越辰雄に其子息の夭折を弔す。山成

来訪。六時三馬路美麗川菜館に立花政樹を招宴す。井手，篠崎，大谷，土井，佐原，島田，波多同坐たり。八時散。

十月十九日 半晴。海軍に通信を發す。山成来訪。郵便局より日報社に至り，四時帰。宇野東風に弔詞を發す。内田友義，田辺豊雄の信至。

十月二十日 陰。北京中畑栄に詩信を發す。午後井手，佐原を訪ふ。少雨，晚晴。夜佐々布を訪ふ。

十月廿一日 晴。午前根津同文書院長来訪。午後井手三郎来訪。

十月廿二日 微雨。午前守田市郎の未亡人を訪ひ其夫君を唁し，去て菊池豊吉を訪ひ小談。帰途坂田長平，井手，立花を歴訪，正午帰。午後茨木章二，立花政樹，三田宗治郎前後来訪。菅村三之の信至。波多来訪。長江虎臣の信至る。

十月廿三日 雨。日曜日。長江虎臣，菅村三之に復書す。午後立花政樹の大連赴任に赴くを送り，帰途西本宅を訪ふ。副島綱雄来訪。夜余洵，佐々布来訪。佐々布を留め会食。

十月廿四日 快晴。南京深澤に信片を發す。午後篠寄，波多，井手を訪ふ。北岡少佐，田久江南来訪。

十月廿五日 晴。奉天本庄大佐に致書す。午後篠寄来訪。六時半小林少佐の招宴に倶楽部に赴く。九時半散。

十月廿六日 快晴。山成，武田来訪。午後井手，大谷来訪，共に倶楽部に至り高橋眞砂女史の絵画を見る。出陳八十点逸品少なからず。木村丑徳の信至。

十月廿七日 晴。成田鍊之助の信至る。海軍に発信す。九州日々社再び大災の報に接し山田珠一に見舞状を發す。高橋正二来訪。河口介男に信片を發す。夜高橋を訪ふ，不在。井手，波多に抵り小談，帰る。

十月廿八日 晴。午前北岡，小林，鈴木の三武官並に中林郵便局長と軍艦明石に吉田司令官，天野艦長以下を訪ひ中食の饗を受け，午後三時辞帰。明石は本日漢口より帰航せし者なり。五時篠崎来訪，共に出て四馬路言茂源に至り蟹を食ふ。坐客雑踏喧囂殊甚。八時餐罷んで日報社に島田を訪ひ小談，帰。山崎領事の案内状至る。

十月廿九日 半晴。井手来訪。夜佐々布を訪ふ。大島新，平川清風，井坂秀雄の信，並に宮本勝の訃音に接す。

十月三十日 快晴。日曜日。午前福田千代作来訪。正午山崎総領事の中食に西茂路の官邸に赴く。根津，井手，福岡，佐原，青木，眞島，田中，外一人同坐たり。二時散ず。三時大島道太郎の追弔会に西本願寺に列す。林賢二郎の信至る。之に復す。

十月三十一日 健晴。天長節，祝日。前九時半領事館に至り聖影を拝す。十一時半より領事館のレセプションに列席す。内外人列席者甚多。大島新に復書す。成田の信至。

十一月一日 晴。荻野芳造を訪ふ。山成来訪。午前日報社，通信社に至り，正午帰。大島博士遺族，徳永長一郎，井上重喜来訪。夜報告を作る。朱輔基，余洵来訪。朱は朱舜水十四世の後裔也。

十一月二日 快晴。京都山科福寿院住職村上素道師，近重博士の紹介にて来訪。海軍に報告を發す。内人に致書。午後井手来訪。荻野芳蔵より朱欒五個を贈り来る。

十一月三日 晴。山成来訪。午後荻野来訪。篠寄に至り血圧を計る。二百を示す。波多，井手を訪ひ，五時帰。

十一月四日 快晴。午後井手，北岡を訪ふ。篠寄来訪，留めて晩餐を共にす。夜波多来談。

十一月五日 晴。昨夕七時原首相東京駅に於て刺客の為に殺されしとの電報有り。午前波多来訪，同文書院石川副院長今朝脳溢血にて死去の報に接す。午後日報社に至り井手と同車同文書院に至り石川一を唁し，藤井，青木，眞島，山田等と小談，帰る。豊陽館に吉田司令官を訪ひ，四時帰寓。山成来訪。奉天本庄大佐，熊本松倉の信至。

十一月六日 快晴。日曜日。前九時日清汽船会社の汽艇にて龍華対岸翁家渡の射獵廟附近に獵し，雉子

二羽、山鷓一、鶉一を獲、四時船に帰り同行の集るを待ち、六時半郵船碼頭に帰着。山成、米田、武田外三名同行たり。夜高田九郎来訪。田岡正樹の信片二通至る。城英一郎、宮永龍見来訪せりと云ふ。成田鍊之助来訪。

十一月七日 快晴。松倉、長江、朱仲弼に致書す。午後篠崎、井手、成田を訪ふ。晚西本、石井則之来訪。

十一月八日 快晴。米原に信片を發す。午前十一時半六三園の草鹿甲子太郎の招宴に赴く。鄭孝胥父子、井手、土井、西本、王国維同坐たり。三時半散ず。成田、山成来訪。七時石井則之の招宴に大東旅社に赴く。井手、秋田、土佐、林、西山外二人同坐たり。十時散ず。井手と歩して岳陽丸に至り成田の漢口行を送り、去て近江丸に草鹿の帰国を送て帰る。

十一月九日 健晴。萱野長知来訪、昨夜広東より帰来せる者也。午後井手、山成来訪。

十一月十日 半晴。朝山成、朱輔基来訪。萱野に抵り小談。午後理髮、篠崎、通信社、日報社、北岡、山本厚三、黒住成章、奥村安太郎等を訪ふ。山本以下二名は代議士也。夜波多来訪。長江、河口介男、橘仁太郎、高橋正二、森茂の信至。

十一月十一日 晴天。午前九時より井手と同車同文書院に至り石川一の告別式に列し、正午帰る。晚井手と吃麵、七時より俱樂部に至り靈智教主渡辺薫美の講演を聴く。其人品動止を視るに徳高からざるも信念強烈にして敢行の気魂有り、亦以て珍とす可き也。内人の信、並に立花政樹、森茂の信片に接す。

十一月十二日 快晴。山成、井手来訪。

十一月十三日 快晴。日曜日。海軍に報告を發す。萱野来訪。平岡、香月に信片を發す。午後井手を訪ふ。山田珠一、小泉土之丞の信至。

十一月十四日 晴天。東京宅に致書、金六百員を送る。小泉に復す。佐原、井手を訪ふ。宮本英三に其父勝氏の死を弔す。午後金子来訪。岩崎宰、立石登、長江虎臣に致書す。田岡正樹、高橋正二、橘仁太郎、河口介男に復書す。井手来る、共に出て四馬路杏花樓の篠崎送別会に臨む。同坐は北岡、北代、金子、島田、西本、波多、大谷の主客十人也。八時散。明月に歩して公園に至り、金子と俱樂部北代の処に至り暢談、十時帰。

十一月十五日 快晴。朝三田宗治郎平湖の狐より帰り来訪。西村佐人の信片至る。天津船津領事に致書す。奉天本庄繁大佐に返書す。

十一月十六日 快晴。前十時山城丸に根津書院長、佐原篤介、萱野長知の帰国を送る。午後日報社を訪ふ。夜横山、大谷来訪。

十一月十七日 快晴。午前新任宇治艦長鹽島中佐、並に石崎良二来訪。正午井手の処に至り蟹を吃す。島田同坐たり。三時帰る。六時坂田長平宅の晩餐に赴く。島田、西本及び熊本同文書院出身者四、五人来会。十時散ず。

十一月十八日 晴。東京宅に金六百員を郵送し、田中壯太郎、吉田司令官、北岡少佐を訪ふ。是夕より平湖に獵せんとす。午後獵装を治す。山成来訪。三時半天后橋畔にて平湖行の汽船に上る。四時開船。石崎良二、藤井同伴たり。船資一元、食費七角。

十一月十九日 晴。响午平湖着、上陸大同客棧に投ず。正午船を賃して出獵。雉子に二射して一を獲たるのみ。五時帰り割烹店に至り晩食す。鯉、蝦、味頗美。葷菜六大碗、飯と共に其費一人僅に四角。廉価驚くべし。夜雨。

十一月廿日 雨。八時船を賃し獵区に向ふ。二時獵罷んで上海行の汽船に乗ず。四時半開船。是日雉子に四射を試て獲る所無し。

十一月廿一日 雨。前八時上海着。平岡、立石登の信、並に米国神尾、日比野中佐合作の信片、広東森岡、磯谷、八田、呉蒼、知識、山田等の信片至。山成来訪。立石より金剛經の石刻を送り来る。立石

に復書す。天津船津辰一郎の信片至る。平岡に復書す。金子来訪。夜波多来談。立花政樹の詩信至る。其韻に次す。

十一月廿二日 快晴。午前杉坂少佐、北岡少佐来訪。香月梅外の信至る。之に復す。辻源太郎来訪。午後豊陽館に深澤暹、杉坂、塩島を訪ふ。吉田中将と北岡の処に暢談、去て通信社に至り小坐、五時帰。

十一月廿三日 陰。午前領事官補栗原作次郎、南京領事深澤暹、井手三郎、鈴木大尉来訪。午後東少将を訪ふ、不在、去て山崎領事の病を問ひ、五時日報社に至り井手、深澤、島田と倶楽部に至り会食す。西郡宗三郎亦来会。十時散帰。鳥居、大島新の信に接す。

十一月廿四日 陰。東少将乙彦来訪。鳥居、大島に復書す。

十一月廿五日 半晴、寒冷漸く加。午後波多、井手来訪。吉田司令官より明夕案内有り、獵約有るを以て辞す。上海銀行より預金を受取る。是日皇太子裕仁親王殿下摂政の大任に就かせられ閑院宮其補導職を命ぜられたり。蓋今上陛下御不例の為なり。

十一月廿六日 半晴。土曜日。是夕より三井野平、佐々布、米田、石崎等と出獵せんとす。朝来獵装を治す。日来風邪の気味にて微熱有り、中食後服薬就床。五時税関埠頭に至り上船。一行の外北代、鈴木兩人亦来会。五時開船。

十一月廿七日 晴。詰朝船を転塘橋に移し、食後上陸打獵。午前雉子二羽を獲、正午帰船。午後淡水橋に移り獵す。鶉一羽を獲四時船に帰る。五時半帰航。

十一月廿八日 雨。前四時上海着、七時帰寓。九時半東少将乙彦を車站に送る。加藤壮太郎の信に接す。内人、丈夫の信至る。山成来訪。山崎領事の案内状至る。姚文藻来訪。土井伊八より明夕晩餐の請帖至る。雉子一羽を土井宅に贈る。成田鍊之助来訪。

十一月廿九日 陰。田邊為三郎来訪、詩草二冊を贈る。午後秋田を訪ひ雉子一羽を贈り、去て成田に抵り留守に送る紅茶と岩寄宰に送る石刻を托し、通信社に至り小談、辻源太郎を訪ひ、三時帰る。五時大谷と土井宅の晩餐に赴く。成田、井手、森、多田同座たり。十時半散。小山田劍南の信、並に北京田岡、野満の信片至。

十一月三十日 晴。午前成田の帰国を山城丸に送り、日報社に小談。天津船津、河野、橘、三澤、八木元八、小林和介の信片至る。六時山崎総領事の留別宴に倶楽部に出席。来賓二百余人。九時散。余海来訪。

十二月一日 晴。渡辺天洋、佐々布質直来訪。四時村上夫人来訪、西本の来るを待ち夫人と同車其宅に至り晩餐の饗を受け、十時帰る。

十二月二日 晴。波多、朱輔基来訪。発熱悪寒、風邪の気味有り。終日静養、報告を作る。

十二月三日 晴。内人の信至る。海軍に報告を發し、別に副本を伊集院大使に送る。尾越の信至る。内人、丈夫に復書す。理髮後井手と小談。

十二月四日 快晴。日曜日。午後二時郵船会社の案内にて欧州初航の新造船箱根丸を観る。井手の処に小談。晚佐々布宅を訪ふ。

十二月五日 快晴。山成来訪。桜山同志会に肥後勤王建碑寄附金五円、鎮海観音会に同五円を送る。午後日報社に至り三時帰る。

十二月六日 晴。海軍に報告を發す。午後日報社に至る。夜波多宅を訪ふ。

十二月七日 陰。正午井手の宅にて山芋汁を会食す。東少将乙彦、杉坂中佐悌二郎の信至。晚井手来訪、十時共に出て車站に至り船津辰一郎を迎ふ。当地領事として天津より転任せる者也。林出、高野の信片に接す。

十二月八日 快晴。林出、杉坂に復す。

十二月九日 晴。内人の信、並に田岡正樹の詩信に接す。海軍に報告を發し、三島生に致書す。井手と小談帰る。寝後船津来訪せりと云ふ。

十二月十日 晴。土曜日。正午山崎，船津両総事の送迎会に倶楽部に出席。散後日報社に井手友喜を訪ふ，本日帰来せし者也。菅村より山芋，柿を送り来る。之に礼状を發す。今夕八時より三井の一行と平湖に出獵せんとす。獵装を治す。海軍少佐柴田源一の信至る。波多夫人より其手製のスエッター一着を贈り来る。八時半税関埠頭に至り上船，野平，柳田，佐々布，立川，中村，米田等同行たり。十時開船。

十二月十一日 晴。前九時平湖附近の高橋に上陸，打獵。午前午後を通じて二弾を發せしのみ，獲る所無し。五時半帰途に就く。

十二月十二日 晴。前三時上海着，七時上陸帰寓。林出，田岡の信に接す。

十二月十三日 雨。八田厚志の信至。山成，井手友喜来訪。午後船津を訪ふ，不在。北岡少佐，並に通信社に至り，四時帰。

十二月十四日 快晴。内人に致書す。上海銀行より預金を受取り，正午井手の処に至り山芋汁を会食す。晚船津辰一郎，内山清来訪。黒住成章の信至。山東賀来敏夫に致書，関税十六円を郵送す。船津より北京会の案内状至。田岡に復す。柴田少佐に返信す。夜緒方二三，土島一夫来訪，本日新嘉坡より来着せる者也。談深更に及んで去る。

十二月十五日 晴。荻野，萱野の電報至る。山成を招き之を交付す。午後古澤藤三郎来訪。海軍に報告を發す。五時井手宅に至り緒方二三，島田，佐々布，井手兄弟と会食す。十時帰。

十二月十六日 晴。理髮。午後山成，井手来訪。六時緒方，波多，太田と同車船津領事官邸の晩餐に赴く。同坐は吉田司令官，井手，鉦鹿，中林，太田，小山，船津弟，正源寺等十余人。十時散。

十二月十七日 半晴。正午緒方二三，井手三郎の帰国を熊野丸に送り，佐々布と麵舗に中食して帰る。広東八角厚志に復書す。高桑来訪。夜佐々布を訪ふ。

十二月十八日 陰。日曜日。除夜新年の詩を作り上海公論社の囑を為す。冬筍を小包にて名和，山下兩大将，伊集院大使，田中少将，南郷大佐，並に留守宅に送る。名和大将以下六処に信片を發す。

十二月十九日 晴。新任明石機関大佐岸田東次郎，副官山本清少佐，河野千万城參謀大尉来訪。橘三郎より北京肥鴨一隻を贈り来る。午後橘三郎，山成，姚文藻前後來訪。四時北岡を訪ふ。岩崎宰，内田友義の信至。内田に復す。晚波多，石田を招き肥鴨を会食す。萱野長知，荻野芳蔵の信至る。外に井手〔出〕大佐，河口介男の信，並に荒賀直順母堂の訃に接す。

十二月廿日 雨。午前山成来訪。井出大佐，荻野，萱野，河口に復書し，荒賀に弔詞を發し奠儀を送る。東京宅に荒賀に送る奠儀小為替券を郵送す。小山田劍南に信片を發す。

十二月廿一日 積陰。成田，賀来，本庄大佐，同文会，鎮海観音会の信至る。年賀状を發す。午後軍艦明石に至り岸田機関大佐，山本副官，河野大尉，其他久保田，椎名，司令部諸氏と談じ，終て吉田司令官を訪ひ，五時帰。安保中将に筍を郵送す。夜西本，波多来訪。波多夫人手製の毛糸チョキ一領を贈らる。

十二月廿二日 陰。朝池田を訪ひ送別，本日凶事の為め帰国するを以てなり。午前永安公司に至り，帰途佐原の帰を聞き往訪，不在，波多に小談。山田謙吉来訪。午後林出賢次郎，川口直人，田久江南，井手三郎の信片至る。成田，井手に復書す。

十二月廿三日 晴。年賀郵便を發送す。林出に復書す。午後波多，櫻井重義来訪。櫻井は東方通信社員として昨日来着せる者也。午後通信社に至る。夜佐々布来訪。

十二月廿四日 晴。海軍に通信を發す。是夕より三井一行と浙江に出獵せんとす。午後獵装を治す。山成来訪。五時税関埠頭に至り上船，野平，柳田，佐々布，米田，中村，立川同行たり。

十二月廿五日 晴。前七時北王橋に達し食後上陸，打獵。白苧里に至り船に帰る。午後白苧附近を獵す。失敗相尋ぎ僅に山鶉一羽，鶉一を獲たるのみ。四時船に帰る。

十二月廿六日 陰。朝船を中塘橋に下し上陸，雉子一羽を獲，四顧橋の舟次に帰る。午後高橋に至り獵

す。獲る所無し。夜雪。

十二月廿七日 微雨，午に至り晴る。前三時上海着，七時上陸帰寓。船津の案内状，岡の信片，並に東方通信社より年末津貼として三百金を送り来る。領収証を發す。午後岡幸七郎より紅茶一箱を送り来る。礼状を發す。山成来訪。六時船津の招宴に俱樂部に出席す。來客二百人。九時散ず。

十二月廿八日 晴。副島より洋菓子一箱を送り来る。姚文藻来訪。佐々布來り蓮子糖一箱を送る。

十二月廿九日 晴。理髮。午前波多を訪ひ羊羹一箱を贈り，去て通信社，北岡を訪ふ。正午帰る。佐々布来訪。狄楚青より天台山蜜柑二箱を贈り来る。

十二月三十日 晴。正午豊陽館に吉田司令官，天野明石艦長，岸田大佐，北岡少佐と会食，四時帰る。山口啓三より鮭筋子三缶を贈り来る。六時より波多宅にて通信社員の忘年会を催し，九時散ず。山口に礼状を發す。

十二月三十一日 陰天。午前船津，日報社，通信社に至る。東京宅其他に年賀状を發す。午後松寄翠来訪。五時税関碼頭に至り上船，一行は野中，北代，鈴木，佐々布，中村の六人也。